

原安第241号
令和7年7月10日

唐津市長 峰 達郎 様

佐賀県知事 山口 祥義



原子力発電所の安全確保に関する協定書第5条に基づく連絡内容について（通知）

このことについて、原子力発電所の安全確保に関する協定書第5条（平常時における連絡）に基づき、以下のとおり九州電力株式会社から連絡を受けたので、平成18年3月26日付けで交換した「原子力発電所の安全確保に関する協定書に係る佐賀県と唐津市の確認書」に基づき、通知します。

1 玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果の報告について

（佐賀県知事宛て 九州電力(株)代表取締役社長執行役員名
2025年6月23日付け 立コミ本第111号）・・・別添1

2 玄海原子力発電所4号機 高燃焼度燃料導入に係る核燃料物質の年間予定使用量の変更に伴う原子炉設置変更届出について

（佐賀県知事宛て 九州電力(株)代表取締役社長執行役員名
2025年6月25日付け 立コミ本第125号）・・・別添2

3 協定書の覚書に基づく連絡について

（佐賀県知事宛て 九州電力(株)代表取締役社長執行役員名
2025年6月30日付け 立コミ本第138号）・・・別添3

4 協定書の覚書に基づく連絡について

（佐賀県知事宛て 九州電力(株)代表取締役社長執行役員名
2025年6月30日付け 立コミ本第147号）・・・別添4



別 添 1

立コミ本第111号

2025年6月23日

佐賀県知事

山口 祥義 様

九州電力株式会社

代表取締役 池 辺 和 5

社長執行役員

玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果の報告について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

かねてから当社事業につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は、玄海原子力発電所原子炉施設保安規定に基づき、火山活動のモニタリング
評価結果（2024年度報告）をとりまとめ、本日、原子力規制委員会へ報告しました。

つきましては、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条第5号に基づき、
別紙のとおりご連絡申し上げます。

今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

(別 紙)

玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果の報告について

玄海原子力発電所原子炉施設保安規定に基づく火山活動のモニタリング評価結果について、下記のとおり報告します。

記

1. 対象火山

阿蘇カルデラ、加久藤・小林カルデラ、始良カルデラ、阿多カルデラ、鬼界

2. 評価期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

3. 評価方法及び評価結果

(添付資料)

(1) 評価方法

火山調査研究推進本部、国土地理院、気象庁等が公表した火山に関する評価並びに国土地理院の地殻変動情報及び気象庁の一元化処理震源データ等を収集・分析することで、対象火山の活動状況の変化について、火山専門家の助言を得た上で評価した。

(2) 評価結果

評価期間を通じて地殻変動及び地震活動に、火山影響評価時から有意な変化は認められないことから、対象火山の活動状況に変化はないと評価した。

対象火山	総合評価 (活動状況の変化)
阿蘇カルデラ	な し
加久藤・小林カルデラ	な し
始良カルデラ	な し
阿多カルデラ	な し
鬼 界	な し

添付資料

川内原子力発電所及び玄海原子力発電所 火山活動のモニタリング評価結果 (2024 年度報告)

以 上

別 添 2

立コミ本第125号

2025年6月25日

佐 賀 県 知 事

山 口 祥 義 様

九州電力株式会社

代表取締役 池 辺 和 弘
社長執行役員

玄海原子力発電所4号機 高燃焼度燃料導入に係る

核燃料物質の年間予定使用量の変更に伴う原子炉設置変更届出について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

かねてから当社事業につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は、玄海原子力発電所4号機の高燃焼度燃料導入に係る核燃料物質の年間予定使用量の変更に伴い、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、本日、原子力規制委員会に原子炉設置変更届出を行いました。

つきましては、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条第5号に基づき、別紙のとおりご連絡申し上げます。

今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

原子炉設置変更届出の内容

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」第43条の3の8第3項の規定に基づき、原子力規制委員会に原子炉設置変更届出※を行いました。

【変更内容】

玄海原子力発電所4号機の高燃焼度燃料導入に係る原子炉設置変更許可を受けたことに伴い、「発電用原子炉に燃料として使用する核燃料物質の種類及びその年間予定使用量」のうち、年間予定使用量を変更した。

なお、核燃料物質の種類（二酸化ウラン焼結ペレット（一部ガドリニアを含む））については、変更ない。

（変更前）

初装荷炉心のウラン装荷量は約89tである。

現在予定している燃料取替方式では以降の年間平均使用量は約23tである。

ただし、次の条件を仮定している。

設備利用率	80%
取替燃料集合体平均燃焼度	約44,000MWd/t
（ウラン235濃縮度	約4.1wt%）

（変更後）

現在予定している燃料取替方式では、年間平均約20tである。

ただし、次の条件を仮定している。

設備利用率	80%
取替燃料集合体平均燃焼度	約50,000MWd/t
（ウラン235濃縮度	約4.8wt%）

※ 「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」第43条の3の8第3項では、「発電用原子炉に燃料として使用する核燃料物質の種類及びその年間予定使用量を変更した日から30日以内に、原子力規制委員会に届け出なければならない」と定められている。

以 上

立コミ本第138号
2025年6月30日

佐賀県知事
山口祥義様

九州電力株式会社
代表取締役
社長執行役員

西山勝

協定書の覚書に基づく連絡について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条に基づき、
別添報告書のとおり連絡いたしますのでご査収ください。

敬具

報告書内容

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 環境保全測定報告書 | (月 報) |
| 2. 発 電 実 績 | (月 報) |
| 3. 核燃料物質の消費状況 | (月 報) |
| 4. 放射性廃棄物の管理状況 | (月 報) |
| 5. 環境放射能の測定結果 | (月 報) |
| モニタリングポスト | |
| 6. 廃止措置の実施状況 | (月 報) |

以 上

環境保全測定報告書

2025 年 5 月分

九州電力株式会社

1. 補助ボイラ用重油のいおう分

重油いおう分 (%)	玄海 1 ・ 2 号 機	玄海 3 ・ 4 号 機
	0.08	0.08

2. 排水処理施設出口排水の水質

玄海 1 ・ 2 号 機					玄海 3 ・ 4 号 機				
測定月日	水素イオン濃度*1	化学的酸素要求量 (mg/ℓ)*1	浮遊物質 量 (mg/ℓ)*2	油 分 (mg/ℓ)*2	測定月日	水素イオン濃度*1	化学的酸素要求量 (mg/ℓ)*1	浮遊物質 量 (mg/ℓ)*2	油 分 (mg/ℓ)*2
5月7日	7.7	0.8	—	—	5月1日	7.3	1.2	—	—
5月14日	7.4	2.2	—	—	5月8日	7.3	1.3	—	—
5月21日	7.7	0.8	0.7	検出せず	5月14日	7.5	1.1	0.1	検出せず
5月28日	7.6	1.0	—	—	5月21日	7.2	1.7	—	—
					5月28日	7.0	3.2	—	—

*1 毎週1回以上の測定

*2 毎月1回以上の測定

3. 取放水口の海水温度および放水の残留塩素

	玄海1・2号機			玄海3号機			玄海4号機		
	取水口の温度 (℃)	放水口の温度 (℃)	放水の残留塩素 (mg/ℓ)	取水口の温度 (℃)	放水口の温度 (℃)	放水の残留塩素 (mg/ℓ)	取水口の温度 (℃)	放水口の温度 (℃)	放水の残留塩素 (mg/ℓ)
5月9日*1	17.7	16.9	検出せず	16.6	18.3	検出せず	16.7	23.4	検出せず
5月20日	20.2	18.6	検出せず	17.9	19.3	検出せず	18.1	24.9	検出せず
5月30日	19.0	17.9	検出せず	18.0	18.3	検出せず	18.0	24.8	検出せず

*1 10日が休日のため、9日の測定結果を報告。

発 電 実 績

2025年5月分

九州電力株式会社

号機		※1	※2				
		1 号 機	2 号 機	3 号 機	4 号 機	発電所合計	
最 大 出 力		kW	—	—	1, 180, 000	1, 180, 000	2, 360, 000
発 電 日 数		日	—	—	0	31	31
発 電 時 間 数		時間	—	—	0	744	744
電 力 量	発 電 端	10 ³ kWh	—	—	0	887, 850	887, 850
	所 内 消 費	10 ³ kWh	1, 057	1, 263	9, 123	34, 252	45, 695
	送 電 端	10 ³ kWh	-1, 057	-1, 263	-9, 123	853, 598	842, 155
最 大 電 力		kW	—	—	0	1, 196, 000	1, 196, 000
平均最大電力		kW	—	—	0	1, 194, 742	1, 194, 742
平 均 電 力		kW	—	—	0	1, 193, 347	1, 193, 347
負 荷 率		%	—	—	0. 0	99. 8	99. 8
利 用 率		%	—	—	0. 0	101. 1	50. 6

※1 2015年4月27日運転終了

※2 2019年4月9日運転終了

核燃料物質の消費状況

九州電力株式会社
(玄海原子力発電所1号炉)

2025年 5月分

初期濃縮度 (%)	炉内 そう入量		月末在庫量 (炉内そう入用)		月末装荷量				炉外取出量				月末在庫量 (払出用)			熱消費量 (10^9 kJ)	核燃料物質消費量 (kg)
	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	プルトニウムの量 (kg)	燃焼度 (10^3 kWd/t)	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	プルトニウムの量 (kg)	燃焼度 (10^3 kWd/t)	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	プルトニウムの量 (kg)		
3.40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(87)	33,075	324	326	0
4.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(113)	42,466	384	487	0
4.80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(168)	64,681	1,414	595	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(368)	140,223	2,122	1,408	0

(注) 2015年4月27日運転終了
(注) () 内は燃料集合体数を示す。

核燃料物質の消費状況

2025年 5月分 九州電力株式会社
(玄海原子力発電所2号炉)

初 期 濃 縮 度 (%)	炉 内 そ う 入 量		月 末 在 庫 量 (炉内そう入用)		月 末 装 荷 量				炉 外 取 出 量				月 末 在 庫 量 (払出用)			熱 消 費 量 (10 ⁹ kJ)	核 燃 料 物 質 消 費 量 (kg)	
	ウ ラ ン の 量 (kg)	ウ ラ ン 235 の 量 (kg)	ウ ラ ン の 量 (kg)	ウ ラ ン 235 の 量 (kg)	ウ ラ ン の 量 (kg)	ウ ラ ン 235 の 量 (kg)	プ ル ト ニ ウ ム の 量 (kg)	燃 焼 度 (10 ⁻³ kWd/t)	ウ ラ ン の 量 (kg)	ウ ラ ン 235 の 量 (kg)	プ ル ト ニ ウ ム の 量 (kg)	燃 焼 度 (10 ⁻³ kWd/t)	ウ ラ ン の 量 (kg)	ウ ラ ン 235 の 量 (kg)	プ ル ト ニ ウ ム の 量 (kg)			
3.40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(189)	72,769	822	680	0	0
4.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(177)	66,880	754	729	0	0
4.80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(84)	33,261	1,168	159	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(450)	172,910	2,744	1,568	0	0

(注) 2019年4月9日運転終了
(注) () 内は燃料集合体数を示す。

核燃料物質の消費状況

2025年

5月分

九州電力株式会社
(玄海原子力発電所3号炉)

初期濃縮度 (%)	炉内量			月末在庫量 (炉内そう入用)			月末装荷量				炉外取用量				月末在庫量 (払出用)			熱消費量 (10 ⁹ kJ)	核燃料物質消費量 (kg)
	ウラン の量 (kg)	235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	ウラン の量 (kg)	235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	ウラン の量 (kg)	235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	燃焼度 (10 ³ kWd/t)	ウラン の量 (kg)	235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	燃焼度 (10 ³ kWd/t)	ウラン の量 (kg)	235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)		
2.00	0	0	---	0	0	---	0	0	0	0	0	0	0	0	29,209 (65)	233	205	0	0
3.50	0	0	---	0	0	---	0	0	0	0	0	0	0	0	7,828 (18)	59	91	0	0
4.10 (MOX) *	44,120 (97)	1,508	---	61,800 (140)	2,431	435	41,978	548	444	15,367	41,978	548	444	37,495	299,011 (36)	3,369	3,365	0	0
4.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,769	22	1,148	0	0
合計	44,120 (97)	1,508	0	61,800 (140)	2,431	435	41,978	548	444	37,495	41,978	548	444	37,495	350,817 (814)	3,683	4,809	0	0

(注) () 内は燃料集合体数を示す。

* 約4.1wt%濃縮ウラン相当以下

核燃料物質の消費状況

2025 年 5 月分 九州電力株式会社
(玄海原子力発電所4号炉)

初期濃縮度 (%)	炉内 そう入量		月末在庫量 (炉内そう入用)		月末装荷量				炉外取出量				月末在庫量 (払出用)			熱 消費 量 (10^9 kJ)	核燃料物質消費量 (kg)
	ウラン の 量 (kg)	ウラン 235 の 量 (kg)	ウラン の 量 (kg)	ウラン 235 の 量 (kg)	ウラン の 量 (kg)	ウラン 235 の 量 (kg)	プルトニウム の 量 (kg)	燃 焼 度 (10^3 kWd/t)	ウラン の 量 (kg)	ウラン 235 の 量 (kg)	プルトニウム の 量 (kg)	燃 焼 度 (10^3 kWd/t)	ウラン の 量 (kg)	ウラン 235 の 量 (kg)	プルトニウム の 量 (kg)		
2.00	0	0	(1) 453	4	0	0	0	0	0	0	0	0	(64) 28,765	195	220	0	0
3.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(64) 28,186	286	304	0	0
4.10	0	0	(209) 92,814	2,218	84,666	1,543	759	28,330	0	0	0	0	(850) 366,334	3,903	4,188	9,109	111
合計	0	0	(210) 93,267	2,222	84,666	1,543	759	13,945	0	0	0	0	(978) 423,286	4,384	4,712	9,109	111

(注) () 内は燃料集合体数を示す。

放 射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2 0 2 5 年 5 月 分

玄海原子力発電所1号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

※ 1、2号炉計の値を示す。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本) (焼却処理等による減少分)	累積貯蔵量(本)
371 (-43)	39, 252

(注) 200 ℓドラム缶相当本数で示す。

※ 1、2、3、4号炉計の値を示す。

放 射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2 0 2 5 年 5 月 分

玄海原子力発電所2号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
—	—	—	—

※ 1、2号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

放 射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2 0 2 5 年 5 月 分

玄海原子力発電所3号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度 (Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度 (Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

※ 3、4号炉計の値を示す。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に示す。

放 射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2 0 2 5 年 5 月 分

玄海原子力発電所4号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm ³)	
		平 均 値	最 大 値
—	—	—	—

※ 3、4号炉計(共用設備)を3号炉分に表示。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

環境放射能測定結果

(2025 年 5 月分)

2025 年 6 月

九州電力株式会社

空間線量率測定結果(モニタリングステーション)

2025 年 5 月分

九州電力株式会社

測定場所 ステーション

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	38	24	26	16	29	24	26
2	27	24	25	17	32	24	25
3	26	24	25	18	25	24	24
4	25	24	25	19	25	24	25
5	42	24	27	20	25	24	24
6	31	24	26	21	42	24	29
7	24	24	24	22	40	24	28
8	25	24	24	23	29	24	25
9	37	24	30	24	38	25	33
10	26	24	25	25	26	24	24
11	27	24	25	26	24	24	24
12	24	24	24	27	25	24	24
13	24	24	24	28	25	24	25
14	25	24	24	29	25	24	25
15	25	24	24	30	24	24	24
				31	24	24	24

空間線量率測定結果(モニタリングポスト)

2025 年 5 月分

九州電力株式会社

測定場所 PC-1(岸壁)

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	35	21	24	16	25	22	23
2	25	22	22	17	29	21	23
3	24	22	22	18	22	21	22
4	23	22	22	19	23	22	22
5	37	22	25	20	22	21	22
6	28	22	23	21	37	22	26
7	22	21	22	22	35	22	24
8	23	22	22	23	26	21	22
9	35	22	28	24	32	22	28
10	23	22	22	25	23	21	22
11	25	22	22	26	22	21	22
12	22	22	22	27	22	22	22
13	22	22	22	28	23	22	22
14	22	21	22	29	23	21	22
15	22	21	22	30	22	21	22
				31	22	21	21

空間線量率測定結果(モニタリングポスト)

2025 年 5 月分

九州電力株式会社

測定場所 PC-2(ダム南)

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	38	23	25	16	27	23	25
2	26	23	23	17	32	22	24
3	26	23	23	18	23	22	23
4	24	23	23	19	24	23	23
5	40	23	26	20	23	22	23
6	29	23	24	21	42	22	28
7	23	22	23	22	38	22	26
8	24	23	23	23	27	22	23
9	37	23	29	24	34	23	30
10	25	22	23	25	24	22	22
11	26	23	23	26	23	22	22
12	23	23	23	27	23	22	23
13	23	22	23	28	23	23	23
14	23	22	23	29	24	22	23
15	23	22	23	30	23	22	23
				31	23	22	22

玄海1号機 廃止措置の実施状況
(2025年5月分)

1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況（注1）

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(1)系統除染	▼着工 (7月13日)								
除染準備作業									
装置設置									
除染									
片付け（装置撤去）									
(2)汚染状況の調査									
線量当量率測定									
試料採取									
輸送・分析・評価									
(3)汚染のない設備の解体撤去									
高圧給水加熱器									
低圧給水加熱器									
タービン建屋内機器(配管材)									
湿分分離加熱器									
グランド蒸気復水器									
復水ブースタポンプ									
復水脱塩装置									
復水フィルタ									
スクリーン洗浄ポンプ									
バックアップポンプ									
スチームコンバータ									
SGBD熱回収装置									
脱気器/湿分分離器逃し弁									
廃液搬送装置									
復水脱塩装置(中和槽・排水槽排水設備)									
バケット吊り装置									
循環水ポンプ									
主/所内変圧器									
(4)使用済燃料搬出									
(5)新燃料搬出									

2 今月の作業実績（注2）

(1) 系統除染

・実績なし（作業終了：2017.7.13～2018.12.11）

(2) 汚染状況の調査

・実績なし（作業終了：2017.8.29～2022.3.18）

(3) 汚染のない設備の解体撤去

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
2次系設備の解体撤去工事	2017.11.1～ 2026.3.31（予定）	汚染のない管理区域外の2次系設備の解体撤去を実施する。	循環水ポンプ解体撤去工事 ・2025.4.14～実施中

【解体撤去物の状況】（注3）

（単位：トン）

種類	発生量		処分量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
金属類	0	1357.6	0	1357.6	0
コンクリート類	0	47.1	0	47.1	0
その他	0	157.1	0	157.1	0

(4) 燃料搬出 (注4)
・実績なし

分類	保管場所	項目	燃料体数
玄海1号 使用済燃料	1号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	240
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	240
	4号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	112
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	112
玄海1号 新燃料	1号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	16
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	16
	1号機 新燃料貯蔵庫	貯蔵量 (当初)	64
		搬出量 (前月末まで)	64
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	0

(5) 放射性固体廃棄物 (注5)

種類	発生量		減少量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
使用済樹脂 (m³)	0	6.425	0	0	6.425
固体廃棄物 (本)	0	794	0	0	794
均質固化体	0	24	0	0	24
充填固化体	0	0	0	0	0
雑 固 体	0	770	0	0	770

(6) 放射線業務従事者の被ばく線量 (注6)

今月			累計 (解体工事準備期間中) [2017.4.19~2025.5.31] (人・mSv)
合計 (人・mSv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)	
0.00	0.00	0.00	200.63

3 その他
・なし

記載要領について

(注1) 1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況

- (1) 使用済燃料搬出の計画については、六ヶ所再処理工場の竣工状況を踏まえた搬出時期の検討を点線で記載する。
- (2) 新燃料搬出の計画については、新燃料を搬出するための輸送容器への収納方法等の技術的検討を点線で記載する。

(注2) 2 今月の作業実績

- (1) 「1 第1段階の進捗状況」に記載している主な工事の実績等を記載する。
- (2) 作業実績がない場合は「実績なし」と記載する。
なお、前月以前に作業を終了している場合は、作業期間を付記する。

(注3) 2 (3) 汚染のない設備の解体撤去 【解体撤去物の状況】

- (1) 「発生量」は、設備を解体した際に計量した量（トン数）を記載する。
- (2) 「処分量」は、施設外に産業廃棄物又は有価物として搬出した量を記載する。
- (3) 「保管量」は、発生量と処分量の累計の差を記載する。

(注4) 2 (4) 燃料搬出

- (1) 「貯蔵量（当初）」は、廃止措置計画認可申請書に記載した、2016年9月30日時点の保管場所ごとの燃料体数を記載する。
- (2) 「搬出量（前月末まで）」は、2016年9月30日から前月末までに搬出した燃料体数（累計）を記載する。

(注5) 2 (5) 放射性固体廃棄物

- (1) 廃止措置計画認可（2017.4.19）以降の1号機における発生量（発電所全体量の内数）を記載する。
- (2) 「使用済樹脂」は、系統除染で使用した樹脂の量（ m^3 ）を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約5.2 m^3 】
- (3) 使用済樹脂の「発生量」は、使用済樹脂貯蔵タンクに受入れた量（ m^3 ）を記載する。
- (4) 使用済樹脂の「減少量」は、処理を実施した量（ m^3 ）を記載する。
- (5) 「固体廃棄物」は、2000ドラム缶換算の本数を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約1,800本】
- (6) 固体廃棄物の「発生量」は、固体廃棄物貯蔵庫に保管した量（本数）を記載する。
- (7) 固体廃棄物の「減少量」は、施設内で処理または施設外に処分した量（本数）を記載する。
- (8) 「保管量」は、発生量と減少量の累計の差を記載する。
- (9) 「雑固体」には、2000ドラム缶詰めしていないものを含む。

(注6) 2 (6) 放射線業務従事者の被ばく線量

- (1) 被ばく線量は、警報付ポケット線量計の測定値（単位： mSv 、小数点以下3桁目を四捨五入した小数点以下2桁）を集計して記載する。

玄海2号機 廃止措置の実施状況
(2025年5月分)

1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況（注1）

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(1)汚染状況の調査						
線量当量率測定						
試料採取						
輸送・分析・評価				輸送・分析 評価		
(2)汚染のない設備の解体撤去	▼着工（6月29日） A,B湿分分離加熱器 RO装置	タービン建屋内機器保温材 油計量タンク 塵芥搬送装置 バケット吊り装置	復水器真空ポンプ	高圧給水加熱器 C,D湿分分離加熱器 脱気器/湿分分離器遮弁 スチームコンバータ 復水脱塩装置（中和槽・排水槽排水設備含む） 復水フィルタ SGBD熱回収装置 製品ヤード	補給水処理設備 車外用空気圧縮機 液体窒素供給装置	循環水ポンプ 主/所内変圧器
(3)使用済燃料搬出				搬出計画検討		
(4)新燃料搬出	輸送容器への収納方法 検討・搬出準備					

2 今月の作業実績（注2）

(1) 汚染状況の調査

・実績なし（作業終了：2020.8.17～2023.9.22）

(2) 汚染のない設備の解体撤去

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
2次系設備の解体撤去工事	2020.6.29～ 2026.3.31（予定）	汚染のない管理区域外の2次系設備の解体撤去を実施する。	循環水ポンプ解体撤去工事 ・2025.4.14～実施中

【解体撤去物の状況】（注3）

（単位：トン）

種類	発生量		処分量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
金属類	2.3	1414.9	2.3	1414.9	0
コンクリート類	0	142.0	0	142.0	0
その他	0	184.5	0	184.5	0

(3) 燃料搬出 (注4)

・実績なし

分類	保管場所	項目	燃料体数
玄海2号 使用済燃料	2号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	254
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	254
	4号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	168
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	168
玄海2号 新燃料	2号機 使用済燃料ピット	貯蔵量 (当初)	28
		搬出量 (前月末まで)	0
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	28
	2号機 新燃料貯蔵庫	貯蔵量 (当初)	84
		搬出量 (前月末まで)	84
		搬出量 (今月分)	0
		貯蔵量 (今月末)	0

(4) 放射性固体廃棄物 (注5)

種類	発生量		減少量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
使用済樹脂 (m³)	0	0	0	0	0
固体廃棄物 (本)	32	614	0	16	598
均質固化体	12	55	0	0	55
充填固化体	0	0	0	0	0
雑 固 体	20	559	0	16	543

(5) 放射線業務従事者の被ばく線量 (注6)

合計 (人・mSv)	今月		累計 (解体工事準備期間中) [2020.4.1~2025.5.31] (人・mSv)
	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)	
0.00	0.00	0.00	11.54

3 その他
・なし

記載要領について

(注1) 1 第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況

- (1) 使用済燃料搬出の計画については、六ヶ所再処理工場の竣工状況を踏まえた搬出時期の検討を点線で記載する。
- (2) 新燃料搬出の計画については、新燃料を搬出するための輸送容器への収納方法等の技術的検討を点線で記載する。

(注2) 2 今月の作業実績

- (1) 「1 第1段階の進捗状況」に記載している主な工事の実績等を記載する。
- (2) 作業実績がない場合は「実績なし」と記載する。
なお、前月以前に作業を終了している場合は、作業期間を付記する。

(注3) 2 (2) 汚染のない設備の解体撤去 【解体撤去物の状況】

- (1) 「発生量」は、設備を解体した際に計量した量(トン数)を記載する。
- (2) 「処分量」は、施設外に産業廃棄物又は有価物として搬出した量を記載する。
- (3) 「保管量」は、発生量と処分量の累計の差を記載する。

(注4) 2 (3) 燃料搬出

- (1) 「貯蔵量(当初)」は、廃止措置計画認可申請書に記載した、2019年3月31日時点の保管場所ごとの燃料体数を記載する。
- (2) 「搬出量(前月末まで)」は、2019年3月31日から前月末までに搬出した燃料体数(累計)を記載する。

(注5) 2 (4) 放射性固体廃棄物

- (1) 廃止措置計画認可(2020.3.18)以降の2号機における発生量(発電所全体量の内数)を記載する。
- (2) 「使用済樹脂」は、除染で使用した樹脂の量(m^3)を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約 1 m^3 】
- (3) 使用済樹脂の「発生量」は、使用済樹脂貯蔵タンクに受入れた量(m^3)を記載する。
- (4) 使用済樹脂の「減少量」は、処理を実施した量(m^3)を記載する。
- (5) 「固体廃棄物」は、2000ドラム缶換算の本数を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約1,700本】
- (6) 固体廃棄物の「発生量」は、固体廃棄物貯蔵庫に保管した量(本数)を記載する。
- (7) 固体廃棄物の「減少量」は、施設内で処理または施設外に処分した量(本数)を記載する。
- (8) 「保管量」は、発生量と減少量の累計の差を記載する。
- (9) 「雑固体」には、2000ドラム缶詰めしていないものを含む。

(注6) 2 (5) 放射線業務従事者の被ばく線量

- (1) 被ばく線量は、警報付ポケット線量計の測定値(単位： mSv 、小数点以下3桁目を四捨五入した小数点以下2桁)を集計して記載する。

立コミ本第147号
2025年6月30日

佐 賀 県 知 事
山 口 祥 義 様

九州電力株式会社
代表取締役
社長執行役員

西 山 勝

協定書の覚書に基づく連絡について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条に基づき、
別添報告書のとおり連絡いたしますのでご査収ください。

敬 具

報告書内容

1. 玄海原子力発電所周辺海域環境調査結果 (年 報)

以 上

玄海原子力発電所

周辺海域環境調査結果

(令和6年度分)

2025年6月

九州電力株式会社

目 次

	ページ
1 調 査 概 要	1
2 調査実施状況	2
3 調査結果の要約	4
4 調 査 結 果	8
(1) 流 況	8
(2) 水 温	9
(3) 水 質	27
(4) 底 質	27
(5) プランクトン	28
(6) 潮間帯生物	28
5 経 年 変 化	29
(参考資料)	
潮間帯生物出現一覧表	38

1 調査概要

玄海原子力発電所周辺海域の令和6年度調査実施概要は下表のとおりであり、調査は「玄海原子力発電所周辺海域環境調査計画(令和6年度)」に基づき実施した。

調 査 項 目	春 季 R6. 5. 24、5. 25	夏 季 R6. 8. 11～8. 27	秋 季 R6. 11. 16、11. 17	冬 季 R7. 2. 20～3. 8
流 況	—	○ (R6. 8. 11～8. 27)	—	○ (R7. 2. 20～3. 8)
水 温	○ (R6. 5. 24)	○ (R6. 8. 20)	○ (R6. 11. 16)	○ (R7. 2. 27)
水 質	○ (R6. 5. 25)	○ (R6. 8. 21)	○ (R6. 11. 17)	○ (R7. 2. 28)
底 質	—	○ (R6. 8. 12)	—	○ (R7. 2. 20)
プランクトン	—	○ (R6. 8. 21)	—	○ (R7. 2. 28)
潮間帯生物	—	○ (R6. 8. 16～8. 19)	—	○ (R7. 2. 27～3. 1)
発 電 所 運 転 状 況	1号機	平成27年4月27日 運転終了		
	2号機	平成31年4月9日 運転終了		
	3号機	通常運転	通常運転	通常運転
	4号機	第16回定期検査中	通常運転	通常運転
定格熱出力一定運転導入時期 3号機：平成15年3月7日 4号機：平成14年11月12日 (参考) 1号機：平成23年12月1日から停止中 2号機：平成23年1月29日から停止中 4号機：令和6年3月27日から 令和6年6月3日まで停止				

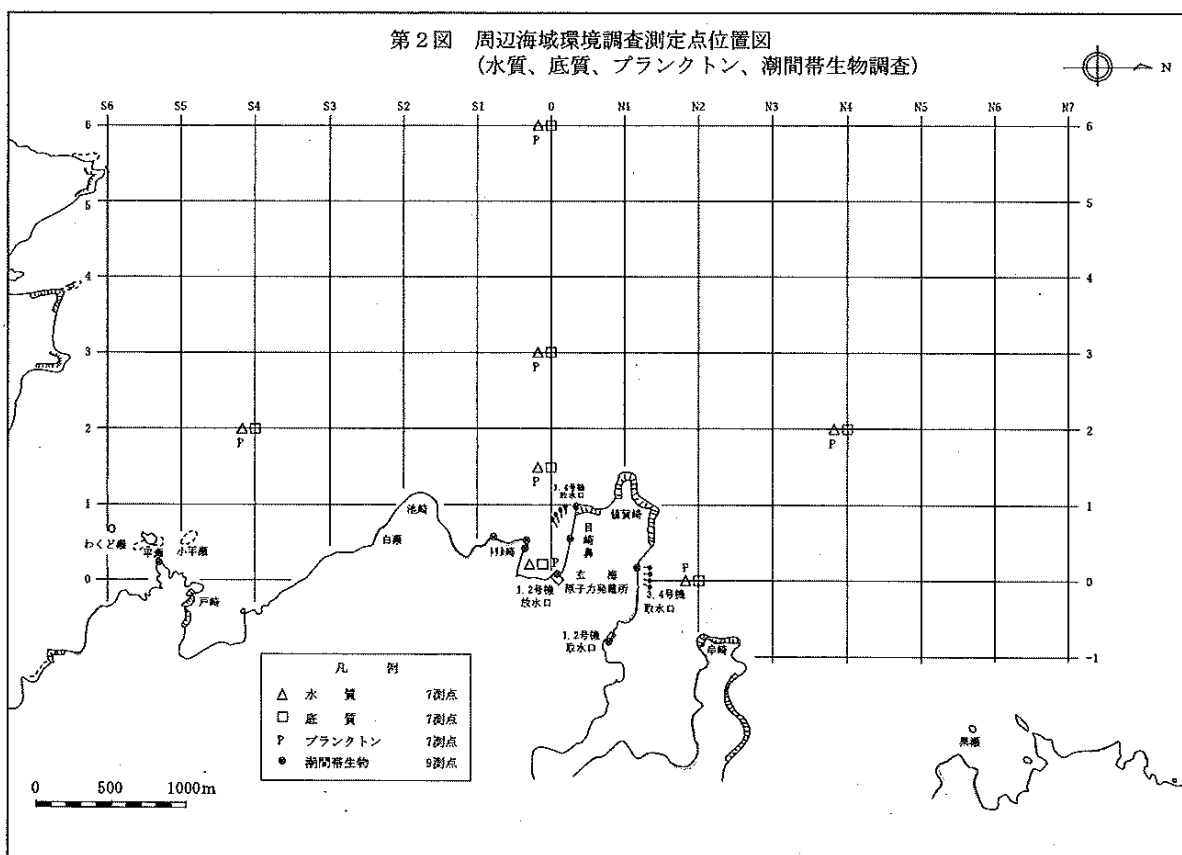
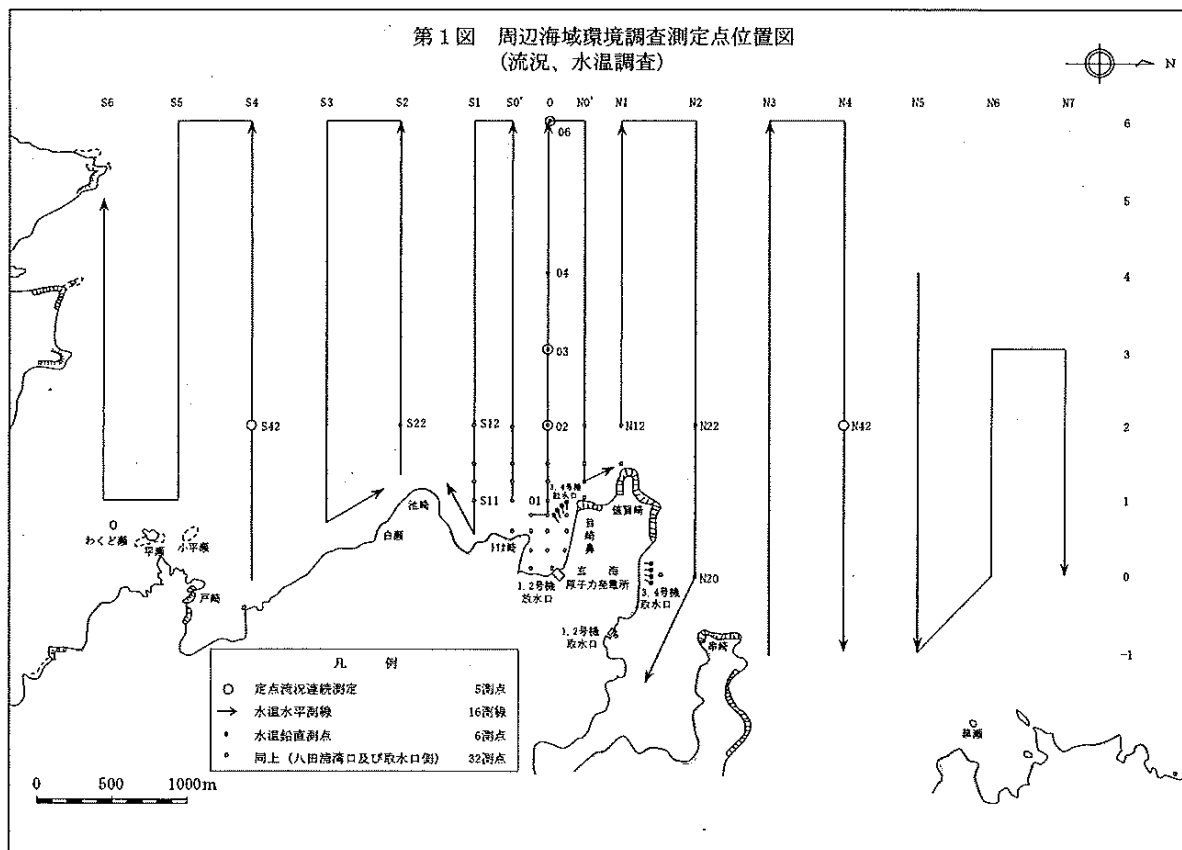
2 調査実施状況

調査測定点位置を第1図及び第2図に示す。

調査項目	内 容		調査方法及び使用機器	点数	観 測 層
流 況	流 向	流 速	定点流況 15 日間連続測定 (JFEアレック (現 JFE アト・バンテック) INFINITY-EM 電磁流速計)	5 測点	海面下 2 m層
水 温	水平分布		曳航式による連続測定 (JFE アト・バンテック) 曳航式水温塩分測定装置(ADL-7)	16 測線	海面下 1 m層
	鉛直分布		電気伝導度水温水深計(多項目水質計)による測定 (JFE アト・バンテック) 多項目水質計(ASTD-102)	38 測点	海面下 0.3、1～10m は 1 m間隔、10m以深 は 5 m間隔、最深は海 底上 1 m
水 質	バンドーン採水器による採水			7 測点	海面下 0.5、3、8、20 mの4層 ただし、放水口周辺 の2測点は、海面下 0.5、3、8 m (水深が 8 m以浅の 場合は、海底上 1 m) の3層
	水 温	電気伝導度水温水深計による測定			
	塩 分	サリノメーター法			
	水素イオン濃度	ガラス電極法			
	溶存酸素量	よう素滴定法			
	化学的酸素要求量	アルカリ性過マンガン酸カリウムによる酸素消費量			
	濁 度	カオリン標準溶液による吸光光度法			
	クロロフィル-a	ユネスコ法による吸光光度法			
底 質	スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥			7 測点	表層土を3回採泥し、 混合して試料とする。
	化学的酸素要求量	過マンガン酸カリウムによる酸素消費量			
	粒 度	ふるい分け及び沈降法			
プラン クトン	植 物	バンドーン採水器により 100採水し 48 時間沈殿		7 測点	海面下 0.5、3、8、15 mの4層 ただし、放水口周辺 の2測点は、海面下 0.5、3、8 m (水深が 8 m以浅の 場合は、海底上 1 m) の3層
	動 物	北原式閉鎖型定量ネット(NXX13)			海面下 0～10、10～20 mの2層 ただし、放水口周辺 の2測点は、海面下 0～10m(水深が 10 m以浅の場合は、海 面下 0～海底上 1 m)の1層
潮間帯 生 物	植 物	動 物	ベルトトランセクト法 岸側から海方向にメジャーを伸ばして、方形枠 (50cm×50cm)を原則として連続的に設定し、各枠 内の出現種を調査	9 測点	潮間帯

注) 1、2号機の取放水方式は「深層取水」・「表層放流」としている。

3、4号機の取放水方式は「深層取水」・「水中放流」としている。



3 調査結果の要約

(1) 春 季

a 水 温

(a) 水平分布

18～21℃台の範囲にあり、放水口前面に18～20℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

(b) 鉛直分布

18～20℃台の範囲にあり、放水口から沖合にかけて下層に向かうにつれて降温していた。

b 水 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温	: 18.5～19.2℃	・化学的酸素要求量	: 0.3～0.5 mg/ℓ
・塩分	: 34.24～34.30	・濁度	: <0.5～0.5 度
・水素イオン濃度	: 8.1	・クロロフィル a	: 0.5～1.8 μg/ℓ
・溶存酸素量	: 7.8～8.5 mg/ℓ		

c ま と め

温排水拡散域は認められず、水質は過去の調査結果と同程度であった。

(2) 夏 季

a 流 況

流向は、放水口前面の測点 02 では北と西南西から西及び北北西を主体とした流れがみられ、その他の測点では北から東北東と南南西を主体とした流れがみられた。

流速は、海域全体で 0~90 cm/s 台の範囲にあり、全般的に沖合の北側海域でやや速く、陸側で 0~10cm/s 台の流れが主にみられた。

これは、過去の調査結果と同程度であった。

b 水 温

(a) 水平分布

25~27℃台の範囲にあり、放水口前面に 25~27℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

(b) 鉛直分布

22~27℃台の範囲にあり、放水口から沖合にかけて下層に向かうにつれて徐々に降温していた。

c 水 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温	: 24.1~27.5℃	・化学的酸素要求量	: 0.4~0.6 mg/ℓ
・塩分	: 32.84~33.17	・濁度	: 定量限界(0.5 度未満)
・水素イオン濃度	: 8.1	・クロロフィル a	: 0.3~1.3 μg/ℓ
・溶存酸素量	: 7.1~7.9 mg/ℓ		

d 底 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・化学的酸素要求量	: 2.2~4.1 mg/g 乾泥		
・粒度 (礫分)	: 0~15%	(粗砂分)	: 1~28%
(細砂分)	: 37~80%	(シルト+粘土+ゴット分)	: 14~45%

e プランクトン

(a) 植 物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量: 取水口側	13 ml/m ³	放水口側	15 ml/m ³
・種類数: 取水口側	34 種	放水口側	38 種
・細胞数: 取水口側	6.4×10 ⁴ 細胞/ℓ	放水口側	11.0×10 ⁴ 細胞/ℓ

(b) 動 物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量: 取水口側	5.2 ml/m ³	放水口側	7.7 ml/m ³
・種類数: 取水口側	34 種	放水口側	35 種
・個体数: 取水口側	30,875 個体/m ³	放水口側	37,780 個体/m ³

f 潮間帯生物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・出現種類数: 植物 26 種、動物 50 種

g ま と め

温排水拡散域は認められず、流況、水質、底質、プランクトン、潮間帯生物は過去の調査結果と同程度であった。

(3) 秋 季

a 水 温

(a) 水平分布

21～23℃台の範囲にあり、放水口前面から値賀崎前面にかけて 23℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

(b) 鉛直分布

22～23℃台の範囲にあり、放水口前面周辺を除くと上層と下層でほぼ等温状態にあった。

b 水 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温	: 22.1～23.1℃	・化学的酸素要求量	: 0.2～0.4 mg/ℓ
・塩分	: 33.15～33.75	・濁度	: 定量限界(0.5 度未満)
・水素イオン濃度	: 8.1	・クロロフィル a	: 0.8～1.9 μg/ℓ
・溶存酸素量	: 6.9～7.5 mg/ℓ		

c ま と め

温排水拡散域は認められず、水質は過去の調査結果と同程度であった。

(4) 冬 季

a 流 況

流向は、放水口前面の測点 02 では西南西から西と北を主体とした流れがみられ、その他の測点では南から西北西及び北北東から北東を主体とした流れがみられた。

流速は、海域全体で 0~70 cm/s 台の範囲にあり、全般的に沖合の北側海域でやや速く、陸側で 0~10cm/s 台の流れが主にみられた。

これは、過去の調査結果と同程度であった。

b 水 温

(a) 水平分布

12~14℃台の範囲にあり、放水口前面から値賀崎前面にかけて 13~14℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は放水口周辺で認められた。

(b) 鉛直分布

12~15℃台の範囲にあり、放水口前面周辺を除くと上層と下層でほぼ等温状態にあった。

c 水 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温	: 12.3~13.4℃	・化学的酸素要求量	: 0.2~0.4 mg/ℓ
・塩分	: 34.38~34.52	・濁度	: 定量限界(0.5 度未満)
・水素イオン濃度	: 8.2	・クロロフィル a	: 1.5~2.9 μg/ℓ
・溶存酸素量	: 9.2~9.5 mg/ℓ		

d 底 質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・化学的酸素要求量	: 0.4~3.4 mg/g 乾泥		
・粒度 (礫分)	: 0%	(粗砂分)	: 1~38%
(細砂分)	: 36~73%	(シル+粘土+ゴット分)	: 26~47%

e プランクトン

(a) 植 物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量: 取水口側	105 ml/m ³	放水口側	28 ml/m ³
・種類数: 取水口側	23 種	放水口側	24 種
・細胞数: 取水口側	20.4×10 ⁴ 細胞/ℓ	放水口側	12.8×10 ⁴ 細胞/ℓ

(b) 動 物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量: 取水口側	56.0 ml/m ³	放水口側	61.6 ml/m ³
・種類数: 取水口側	16 種	放水口側	17 種
・個体数: 取水口側	20,550 個体/m ³	放水口側	31,150 個体/m ³

f 潮間帯生物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・出現種類数: 植物 41 種、動物 52 種

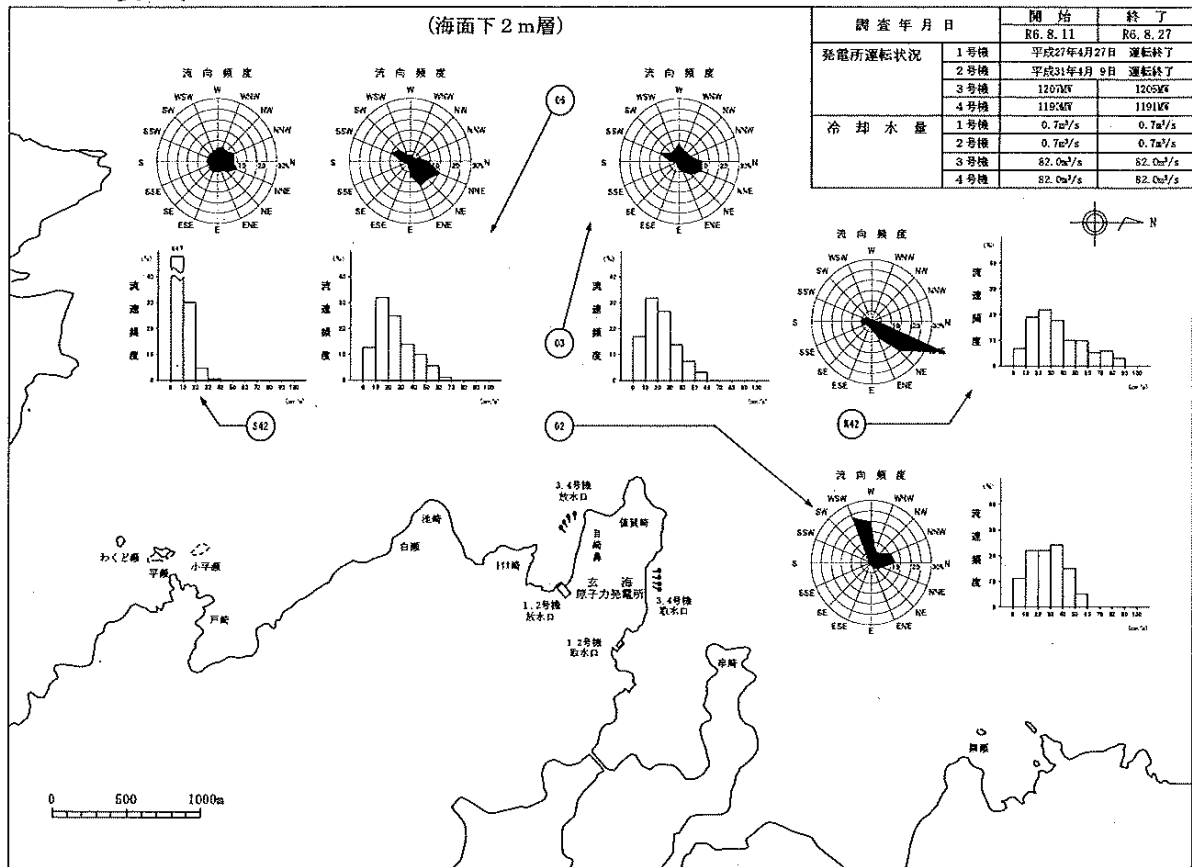
g ま と め

温排水拡散範囲は放水口周辺に限られ、また、流況、水質、底質、プランクトン、潮間帯生物は過去の調査結果と同程度であった。

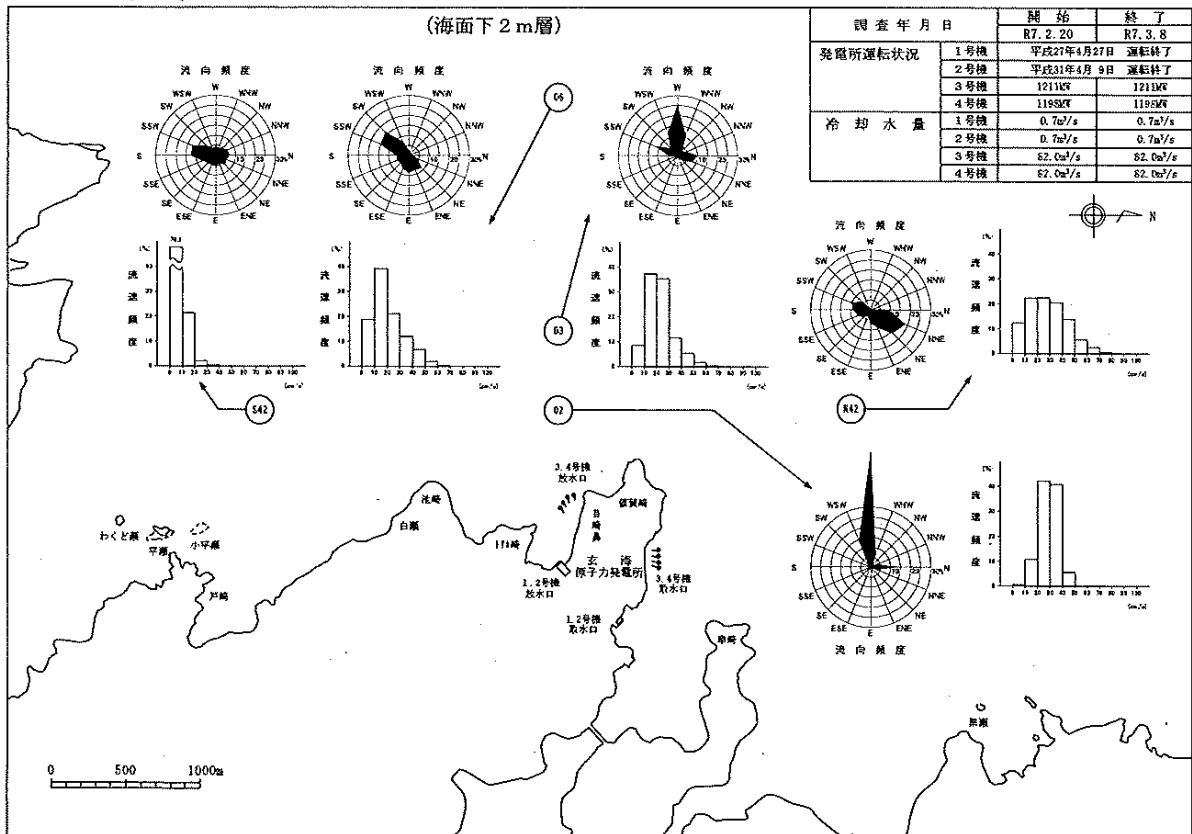
4 調査結果

(1) 流況

a 夏季



b 冬季



(2) 水 温

調査時諸元表

項 目		時 期	春 季			夏 季		
		単 位	満 潮 時	下 げ 潮 時	干 潮 時	満 潮 時	下 げ 潮 時	干 潮 時
測 定 年 月 日		—	令和6年5月24日			令和6年8月20日		
測 定 時 間		—	08:45~ 09:49	12:00~ 13:08	15:15~ 16:21	09:00~ 09:58	12:15~ 13:13	15:10~ 16:09
出 力	1 号 機	MW	—	—	—	—	—	—
	2 号 機	MW	—	—	—	—	—	—
	3 号 機	MW	1211	1209	1210	1210	1208	1208
	4 号 機	MW	0	0	0	1194	1193	1193
冷却水量	1 号 機	m ³ /s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	2 号 機	m ³ /s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	3 号 機	m ³ /s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
	4 号 機	m ³ /s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
1、2 号機取水口側水温		℃	19.9	20.4	20.8	27.9	28.7	29.2
1、2 号機放水口側水温		℃	18.6	19.1	19.0	25.3	26.2	26.9
1、2 号機取放水口水温差		℃	-1.3	-1.3	-1.8	-2.6	-2.5	-2.3
3 号機取水口側水温		℃	18.7	18.7	19.3	25.1	25.5	25.2
3 号機放水口側水温		℃	25.5	25.6	26.1	31.6	32.0	31.7
3 号機取放水口水温差		℃	6.8	6.9	6.8	6.5	6.5	6.5
4 号機取水口側水温		℃	18.7	18.8	19.2	25.1	25.5	25.1
4 号機放水口側水温		℃	18.7	18.8	19.2	31.7	32.1	32.1
4 号機取放水口水温差		℃	0.0	0.0	0.0	6.6	6.6	7.0
海 象	気 温	℃	22.4	26.0	22.2	29.6	34.6	35.2
	風 向	—	S S W	N W	N E	S	S	S
	風 速	m/s	4.6	1.6	6.0	3.0	6.7	8.6
	海 況	—	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏
	潮 位	c m	226~228 ~225	149~92	20~16 ~19	274~277 ~273	175~114	27~19 ~20

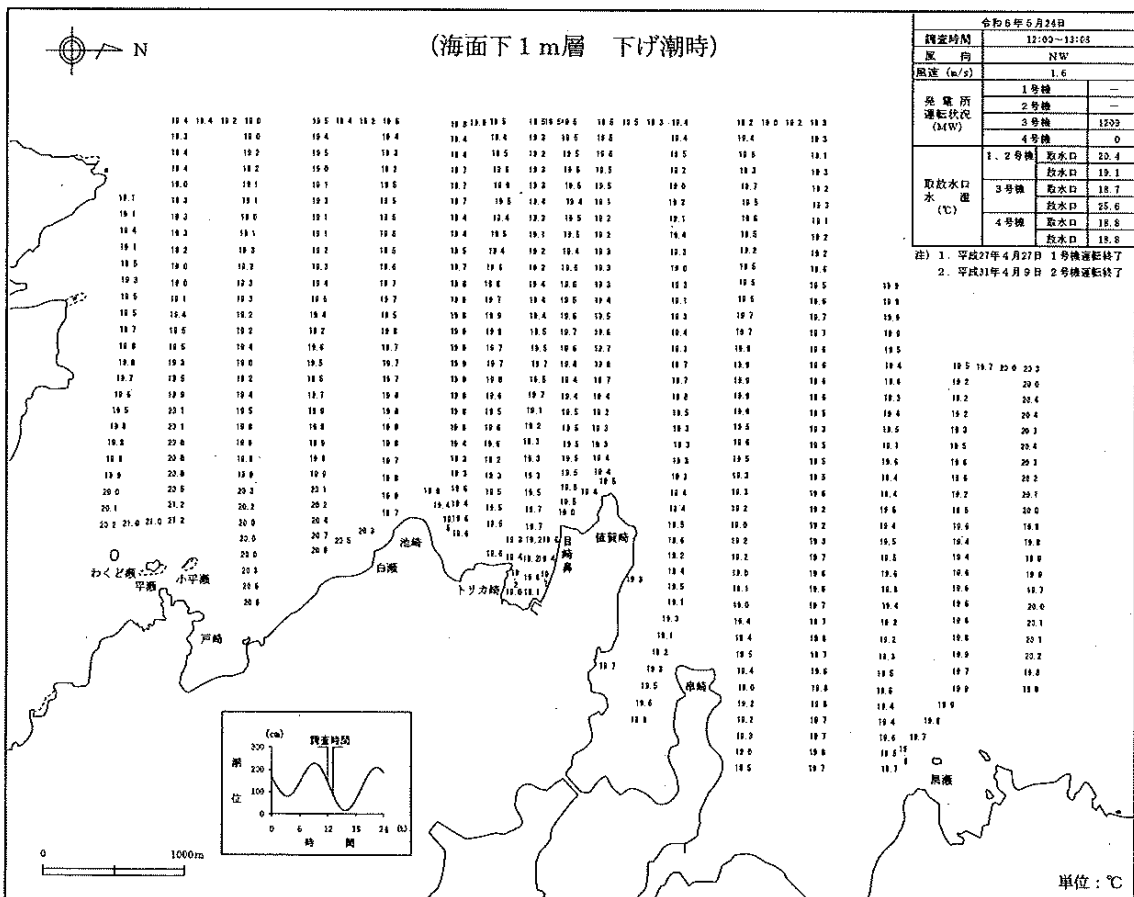
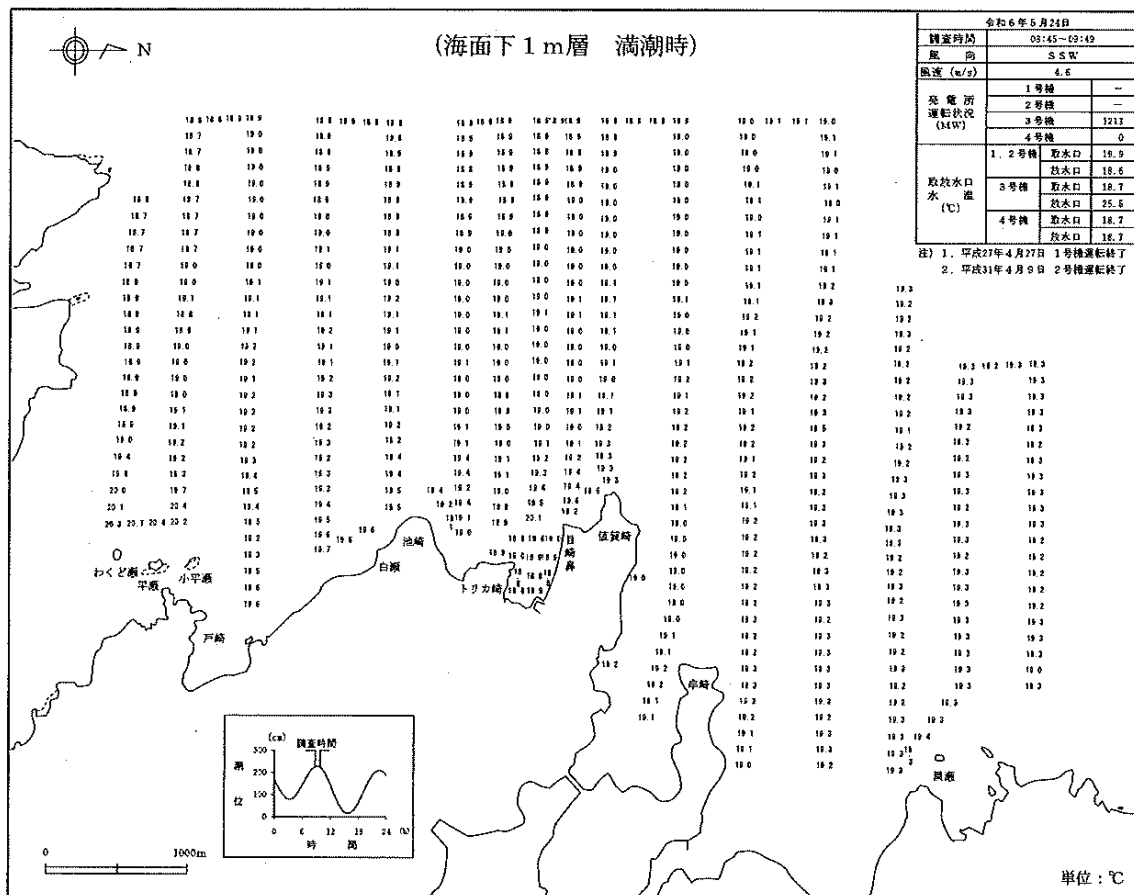
注) 1. 平成27年4月27日 1号機運転終了。
 2. 平成31年4月9日 2号機運転終了。

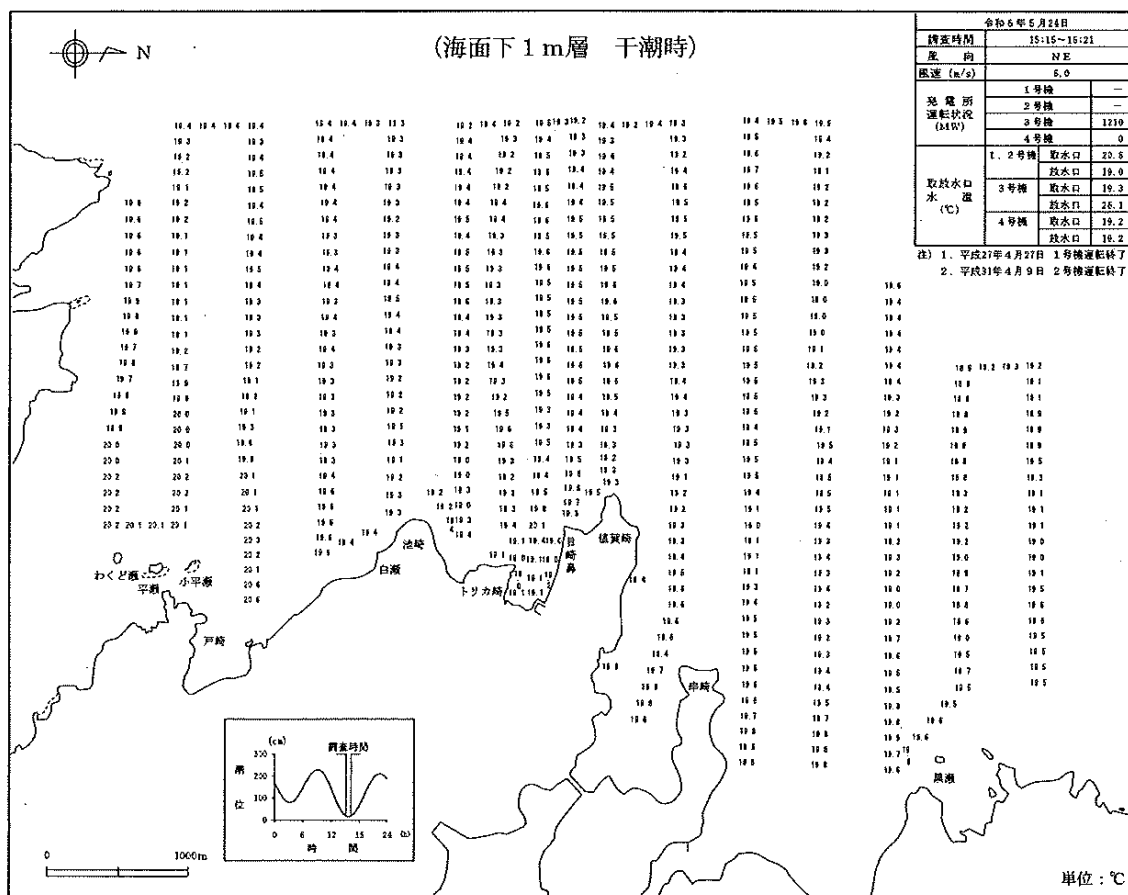
調査時諸元表

項 目		時 期	秋 季			冬 季		
		単 位	満 潮 時	下げ潮時	干 潮 時	満 潮 時	下げ潮時	干 潮 時
測 定 年 月 日		—	令和6年11月16日			令和7年2月27日		
測 定 時 間		—	09:15~ 10:20	12:00~ 13:00	14:45~ 15:44	09:00~ 10:07	12:00~ 13:07	14:30~ 15:31
出 力	1 号 機	MW	—	—	—	—	—	—
	2 号 機	MW	—	—	—	—	—	—
	3 号 機	MW	1208	1210	1209	1209	1209	1209
	4 号 機	MW	1196	1196	1196	1195	1196	1197
冷却水量	1 号 機	m ³ /s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	2 号 機	m ³ /s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	3 号 機	m ³ /s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
	4 号 機	m ³ /s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
1、2号機取水口側水温		℃	21.6	21.7	21.8	12.3	12.4	12.4
1、2号機放水口側水温		℃	22.0	22.0	22.0	12.2	12.4	12.4
1、2号機取放水口水温差		℃	0.4	0.3	0.2	-0.1	0.0	0.0
3号機取水口側水温		℃	22.0	22.0	22.0	12.5	12.5	12.5
3号機放水口側水温		℃	28.8	28.8	28.8	19.5	19.5	19.5
3号機取放水口水温差		℃	6.8	6.8	6.8	7.0	7.0	7.0
4号機取水口側水温		℃	22.0	22.0	22.0	12.5	12.5	12.5
4号機放水口側水温		℃	28.6	28.6	28.6	19.2	19.2	19.3
4号機取放水口水温差		℃	6.6	6.6	6.6	6.7	6.7	6.8
海 象	気 温	℃	19.5	22.0	24.5	10.1	12.8	13.2
	風 向	—	NE	SE	NNE	SSE	W	N
	風 速	m/s	1.0	0.5	1.8	2.4	1.7	0.6
	海 況	—	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏	静 穏
	潮 位	cm	234~235 ~229	170~123	71~68 ~74	196~201 ~197	134~82	40~35 ~37

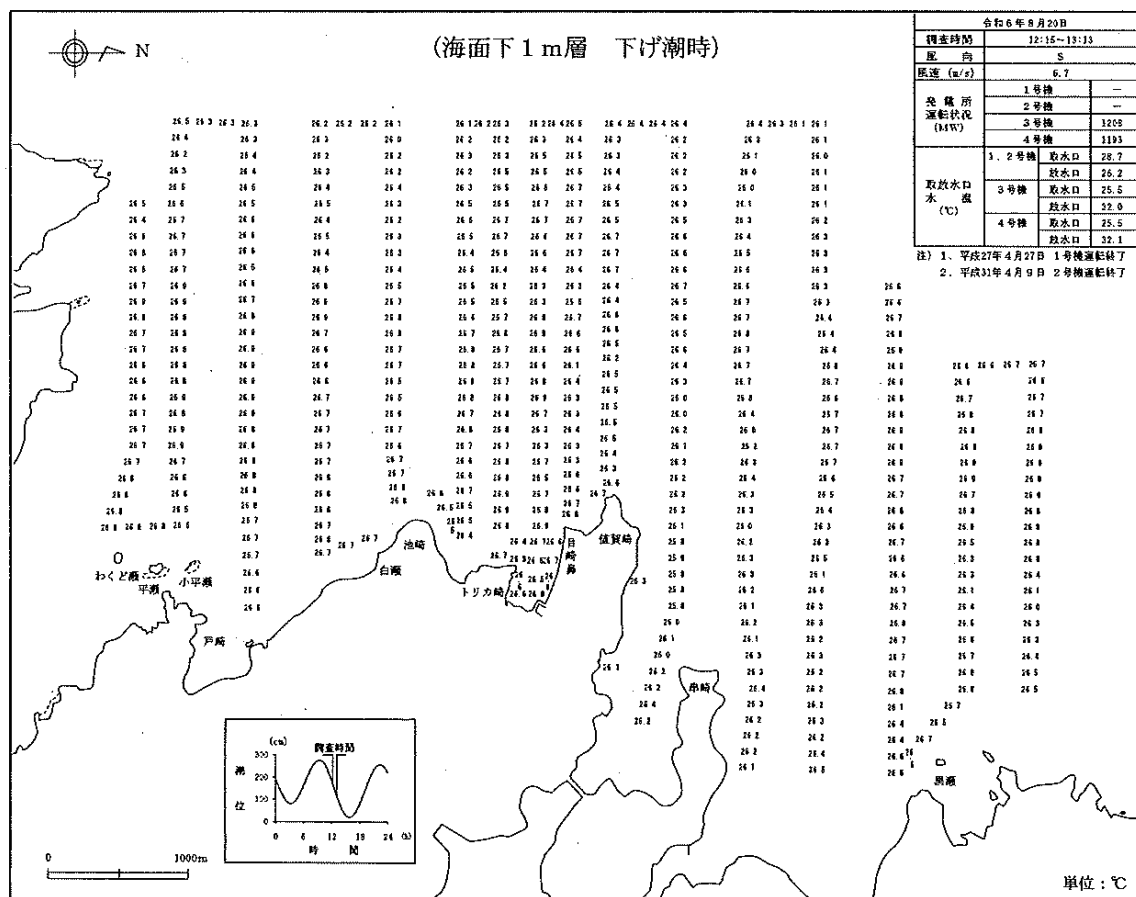
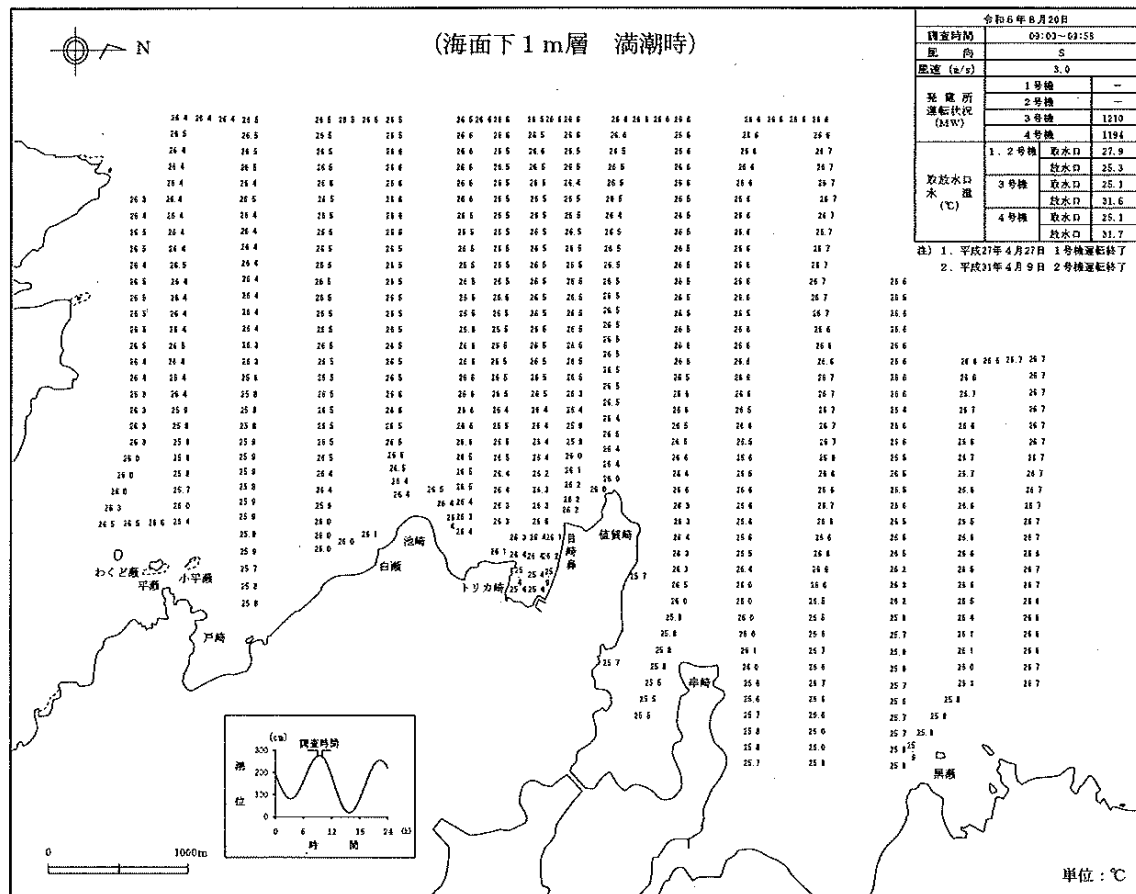
注) 1. 平成27年4月27日 1号機運転終了。
2. 平成31年4月9日 2号機運転終了。

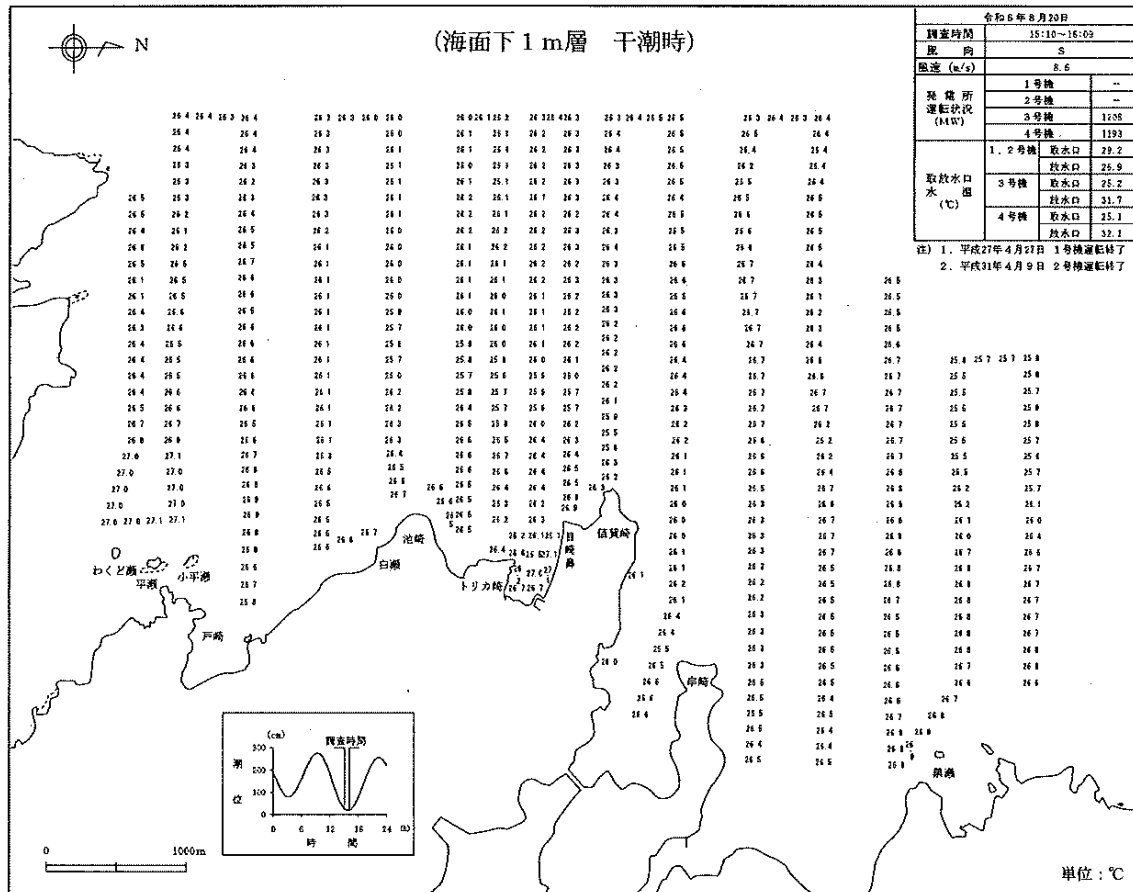
a 水温水平分布
(a) 春 季



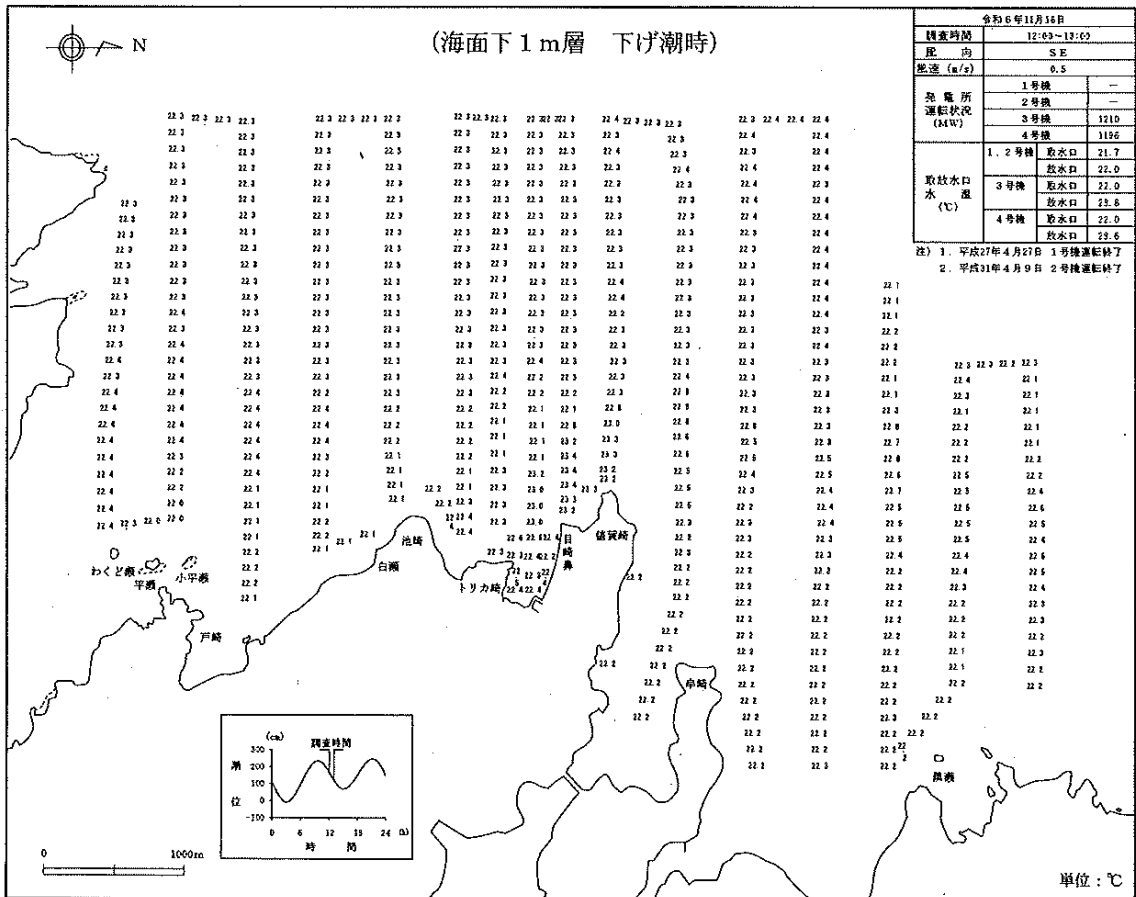
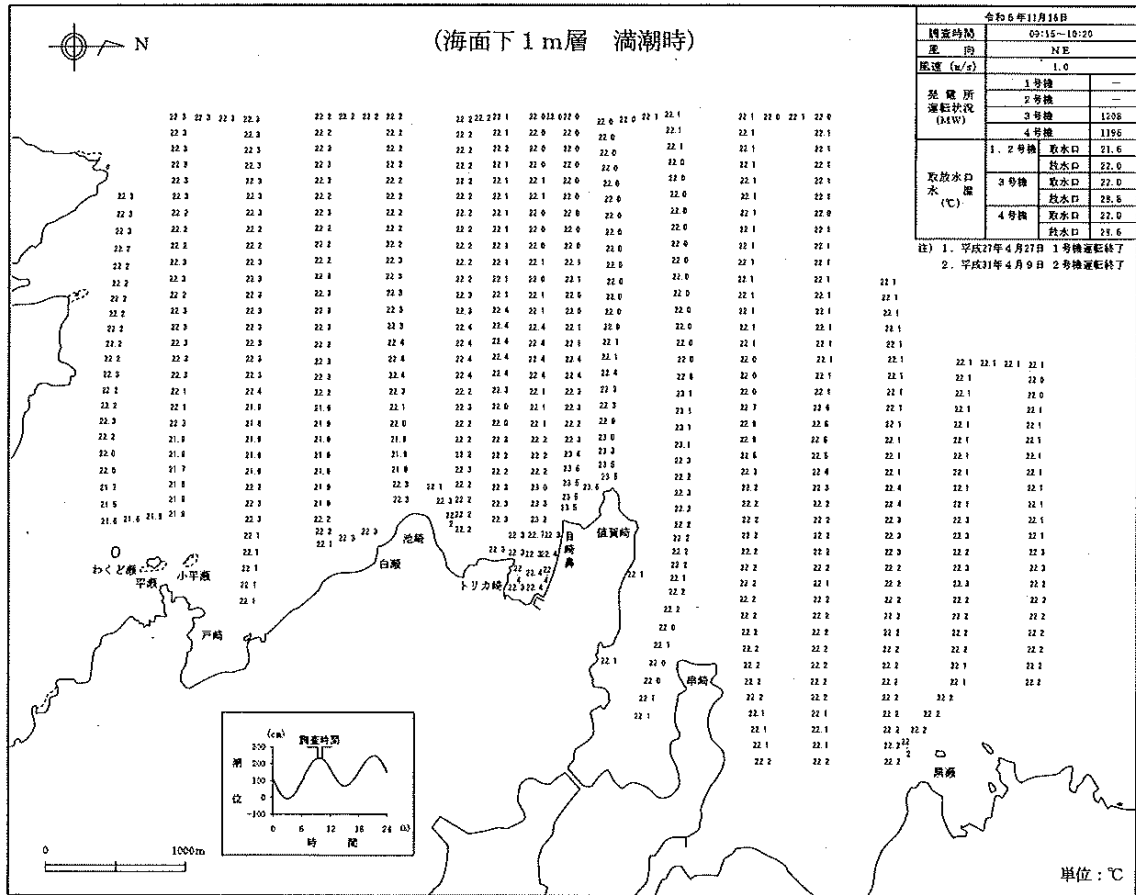


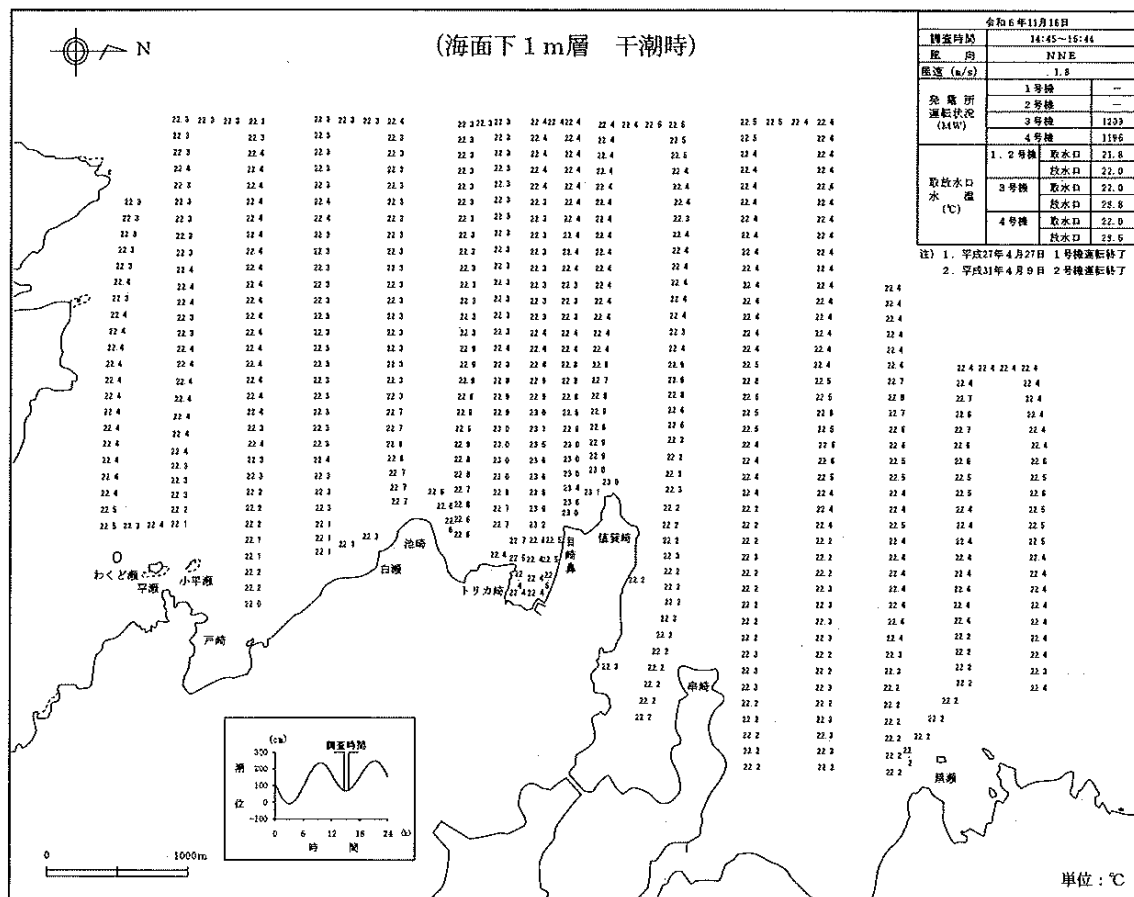
(b) 夏季



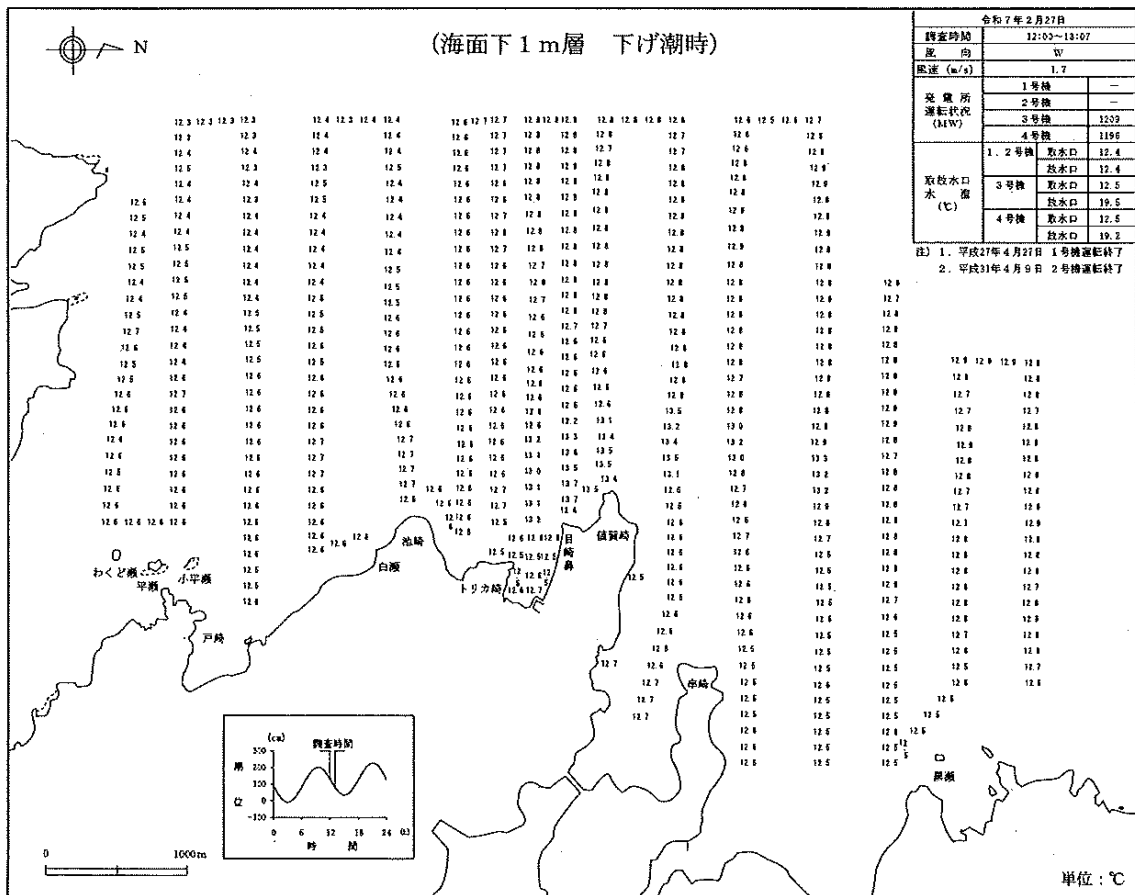
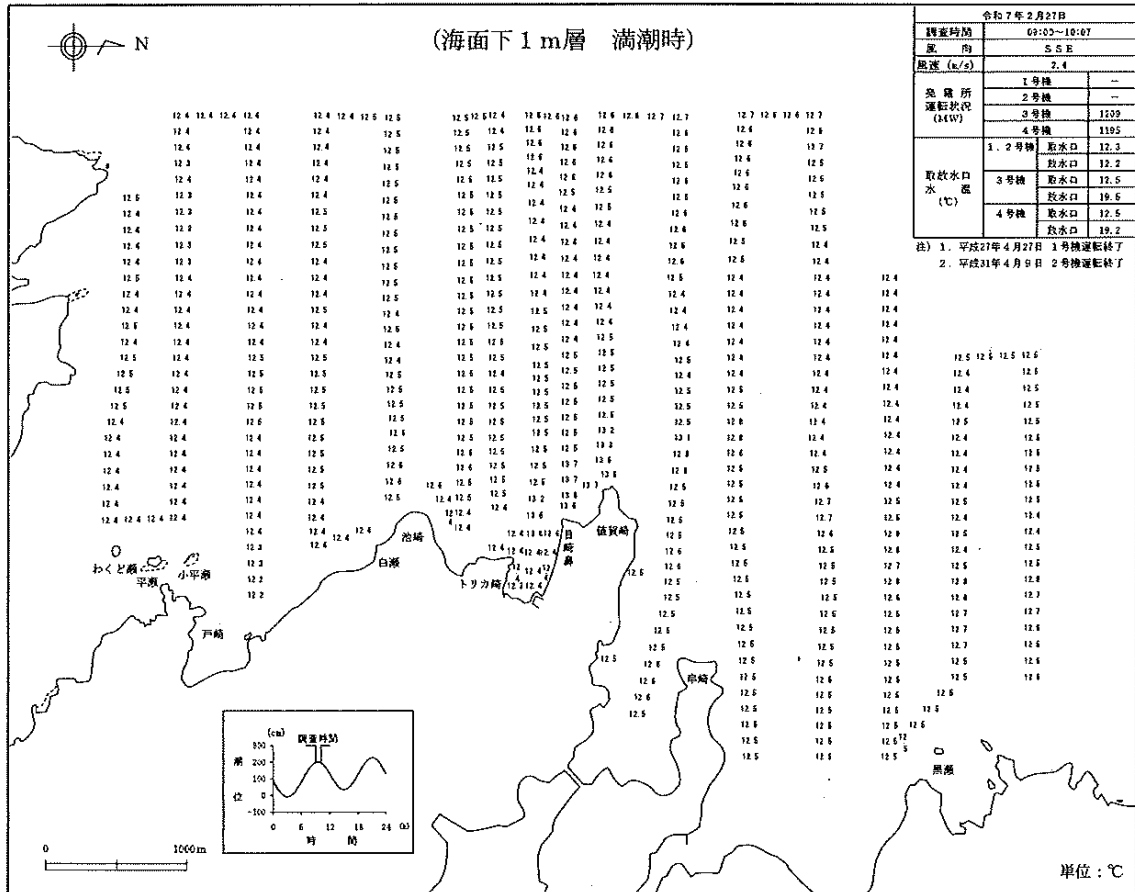


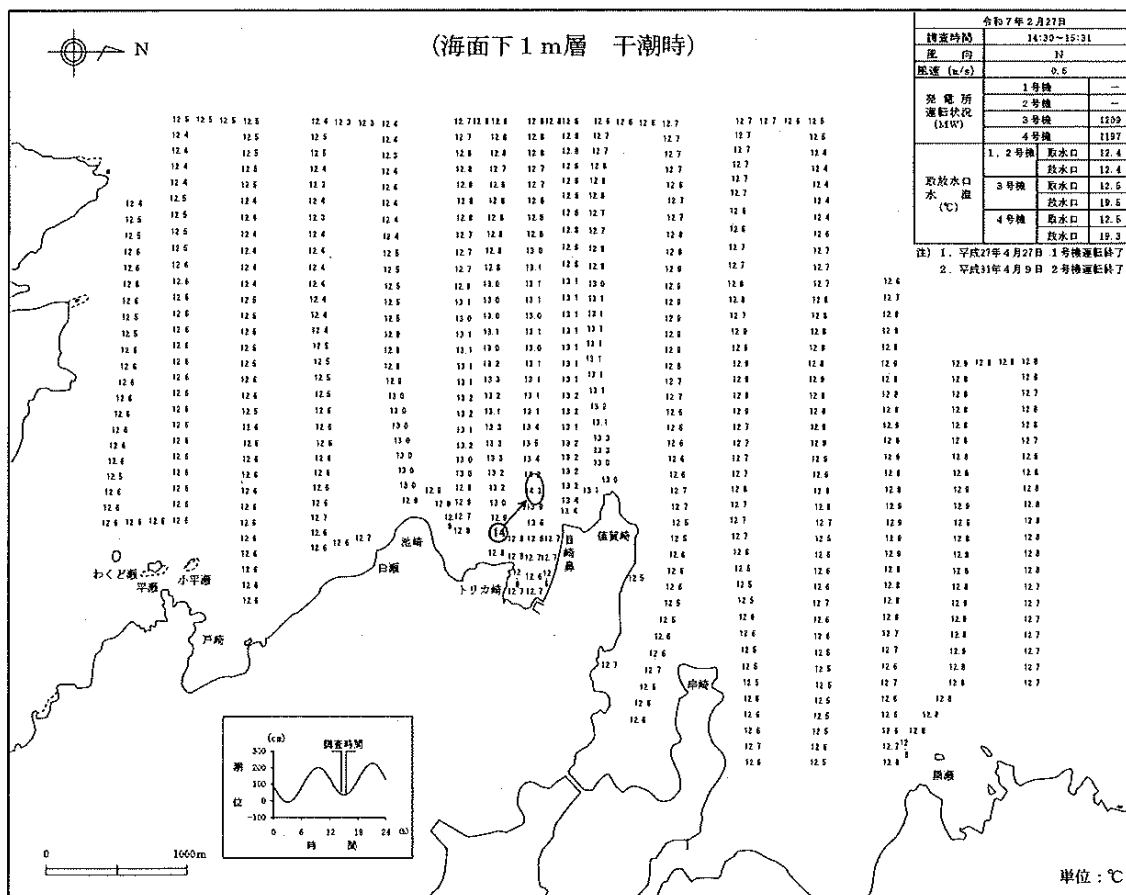
(c) 秋 季



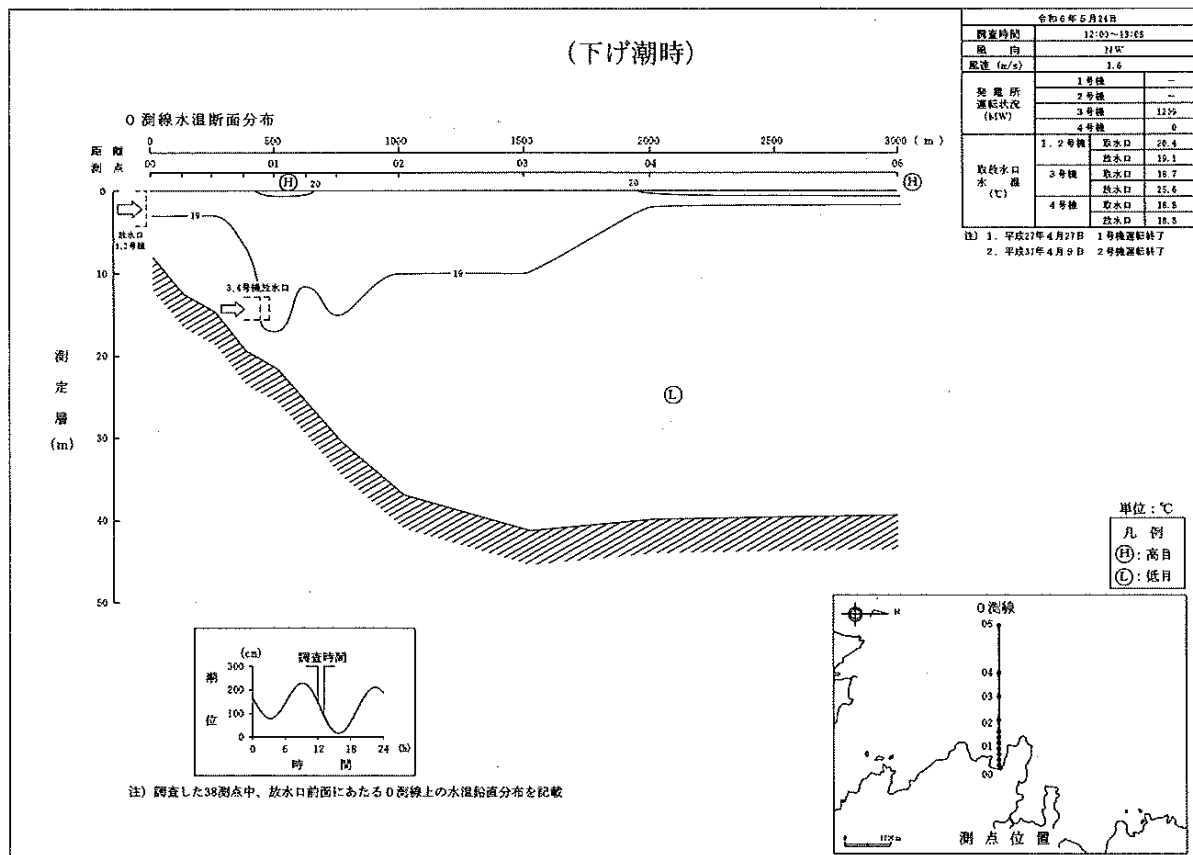
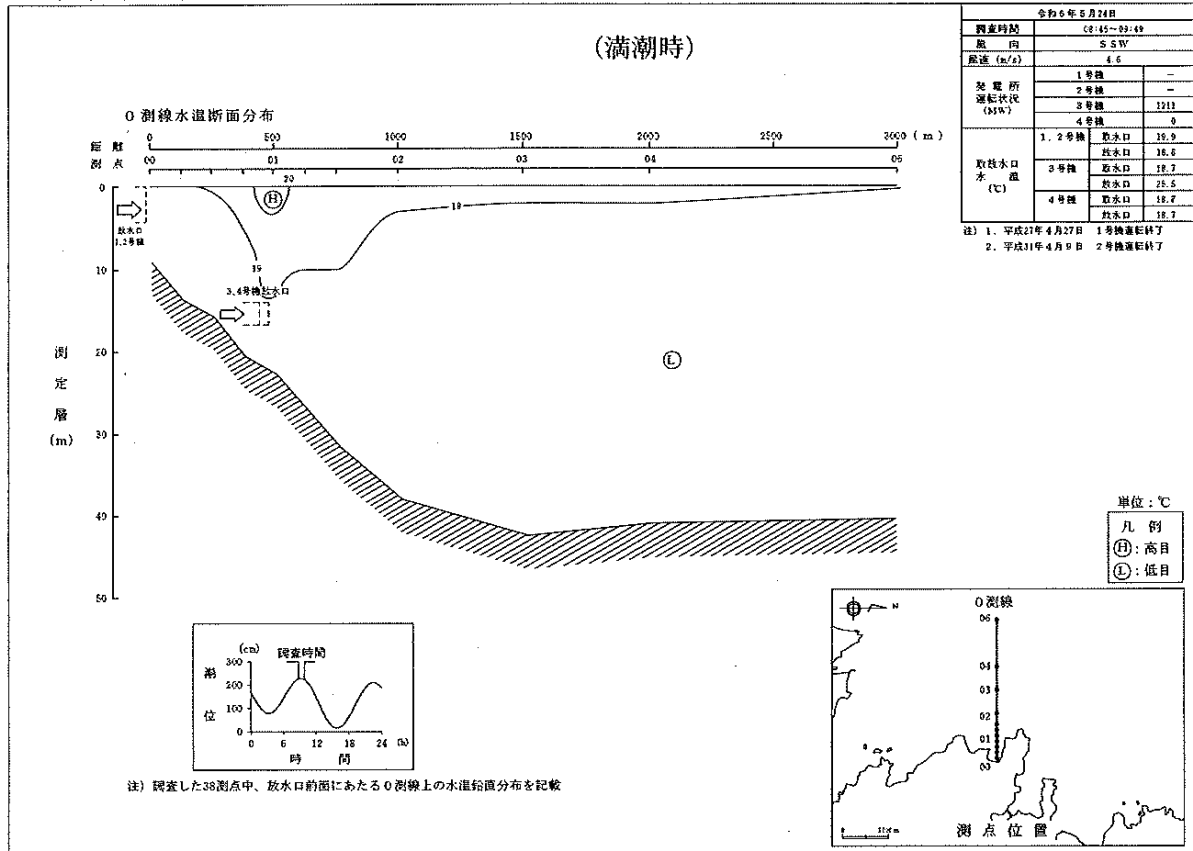


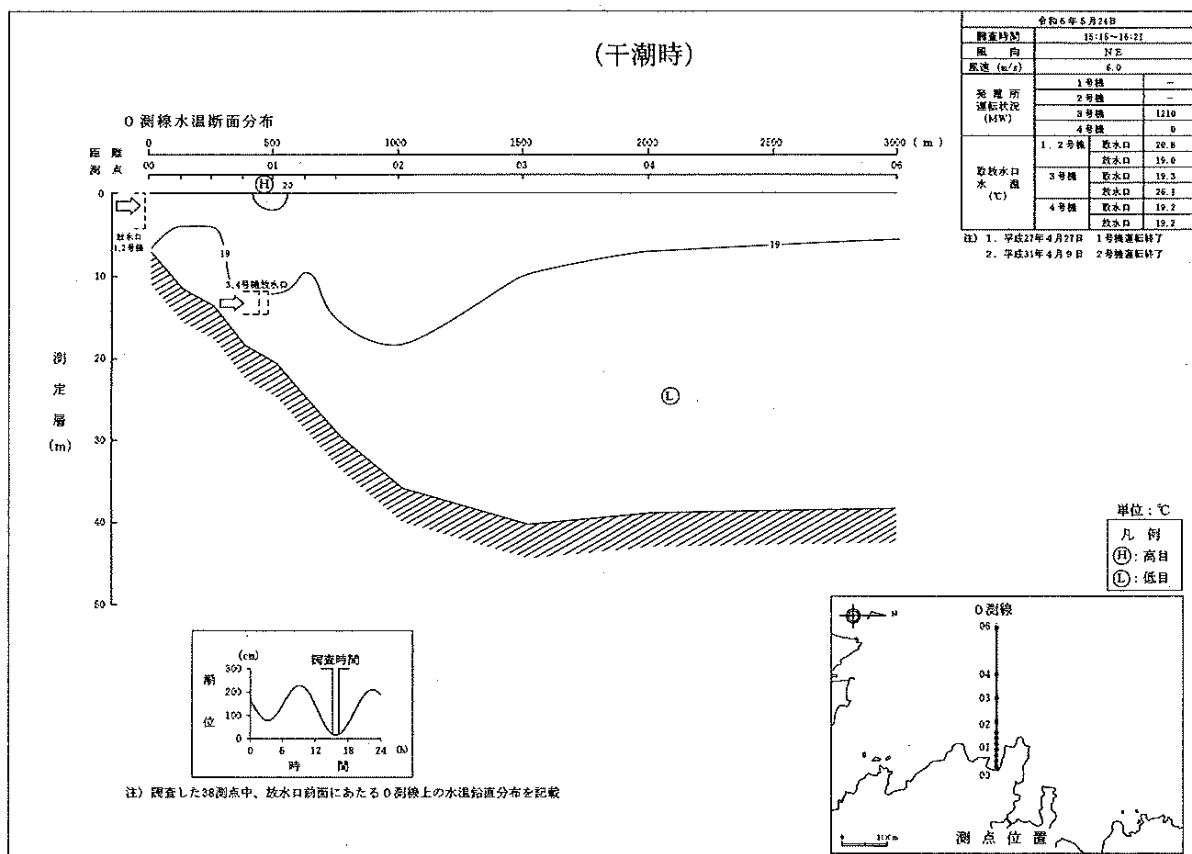
(d) 冬 季



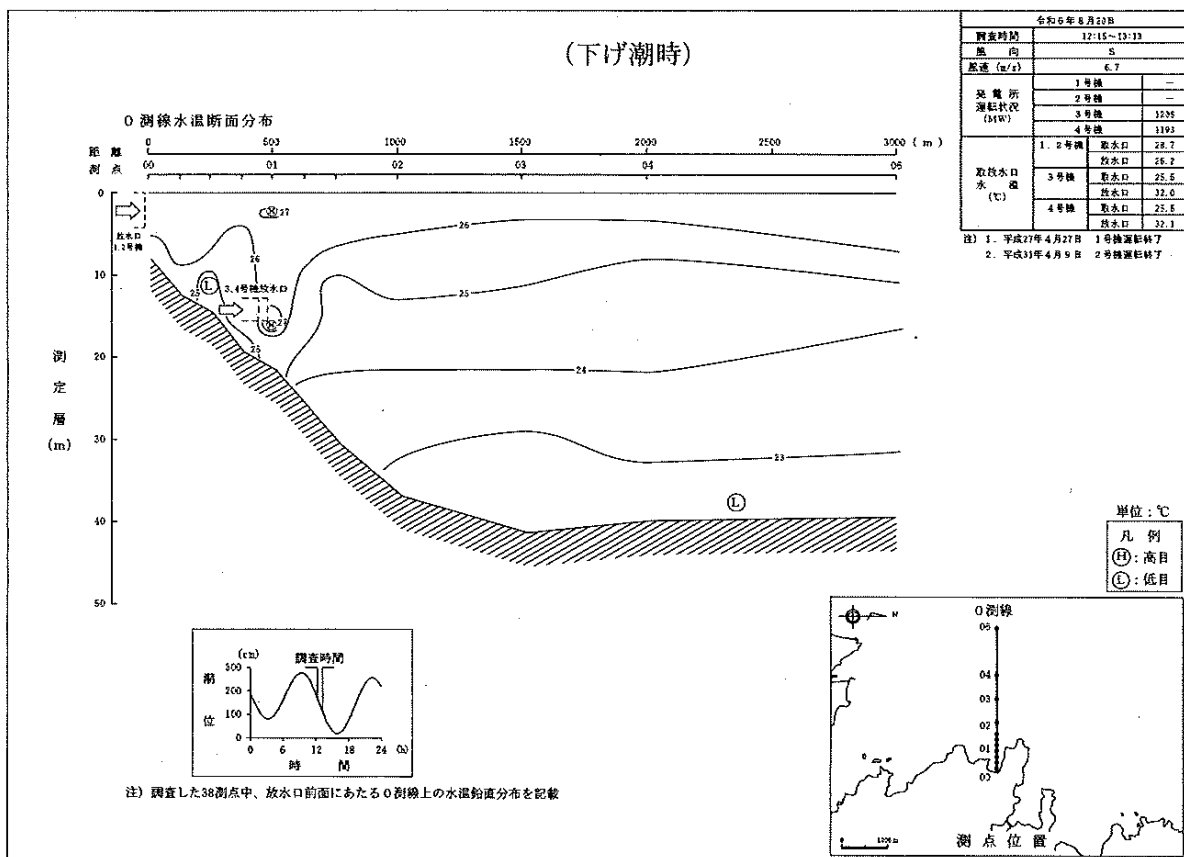
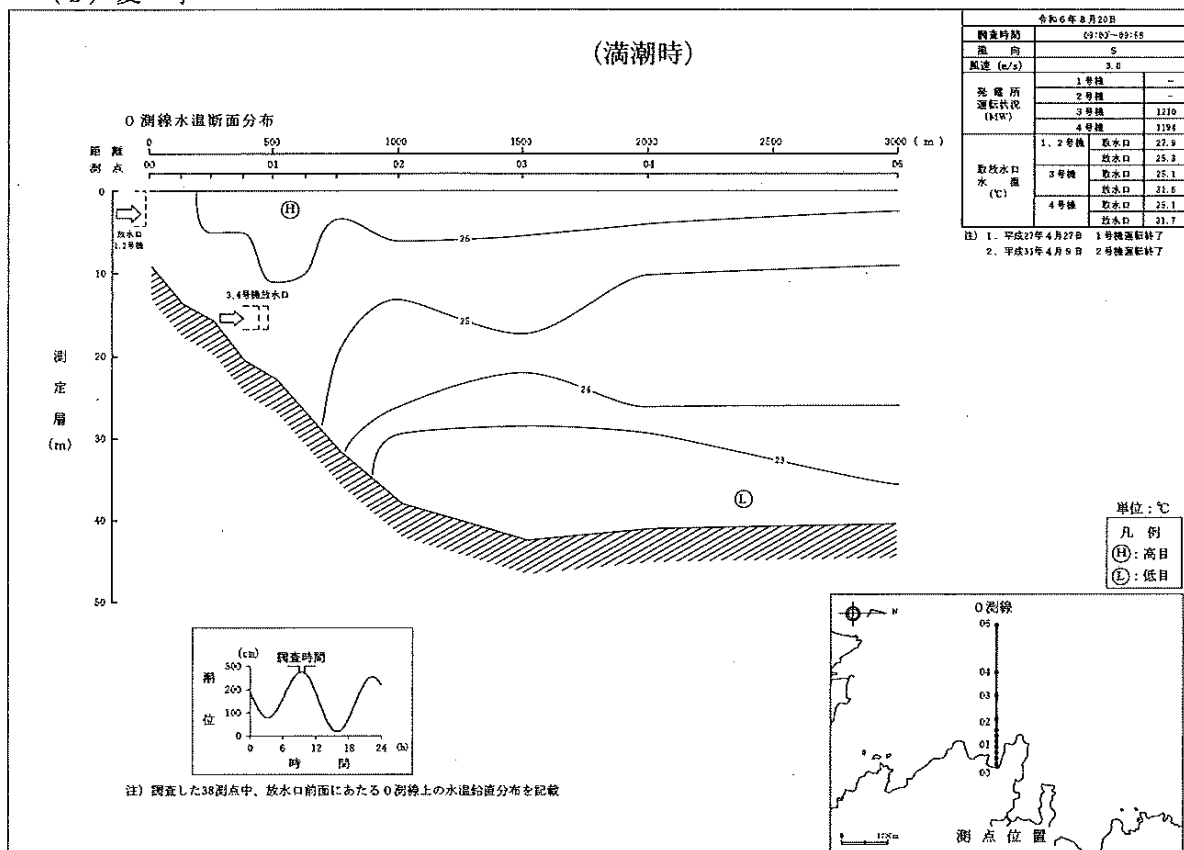


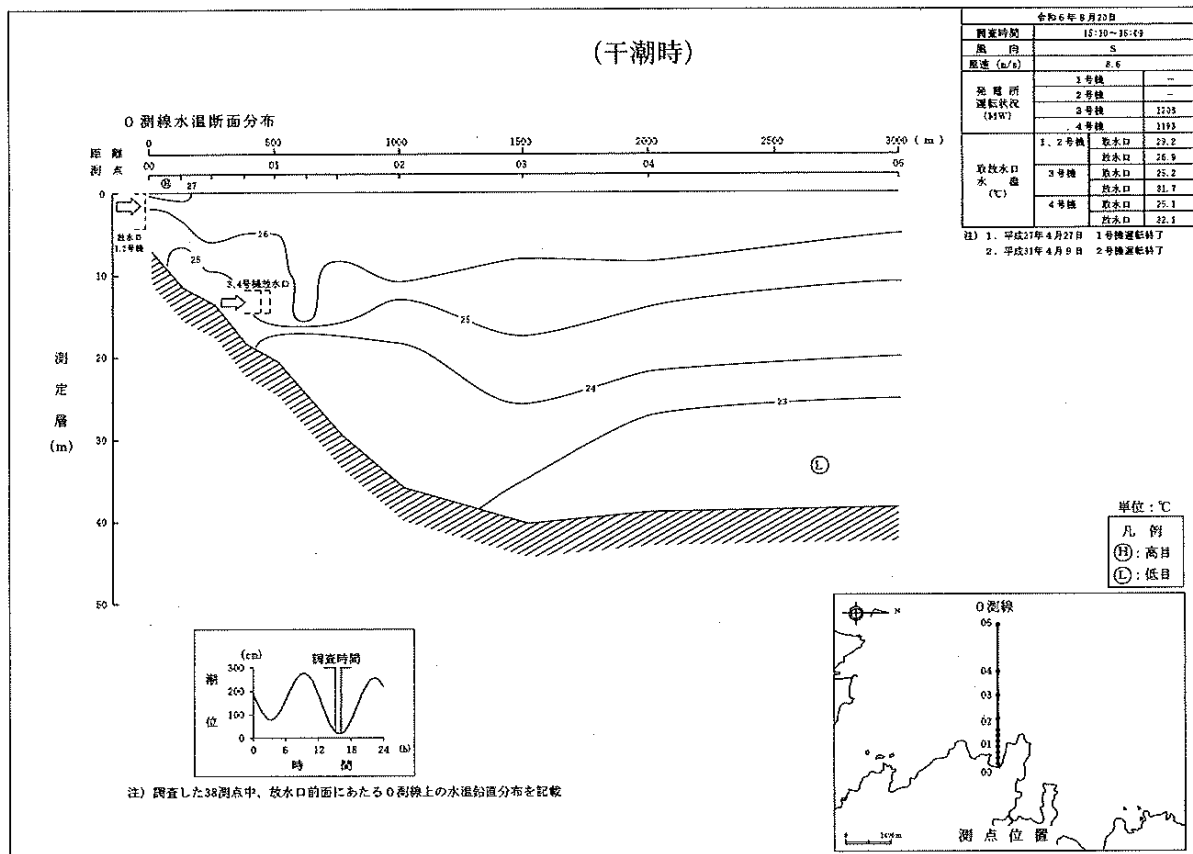
b 水温鉛直分布
(a) 春 季



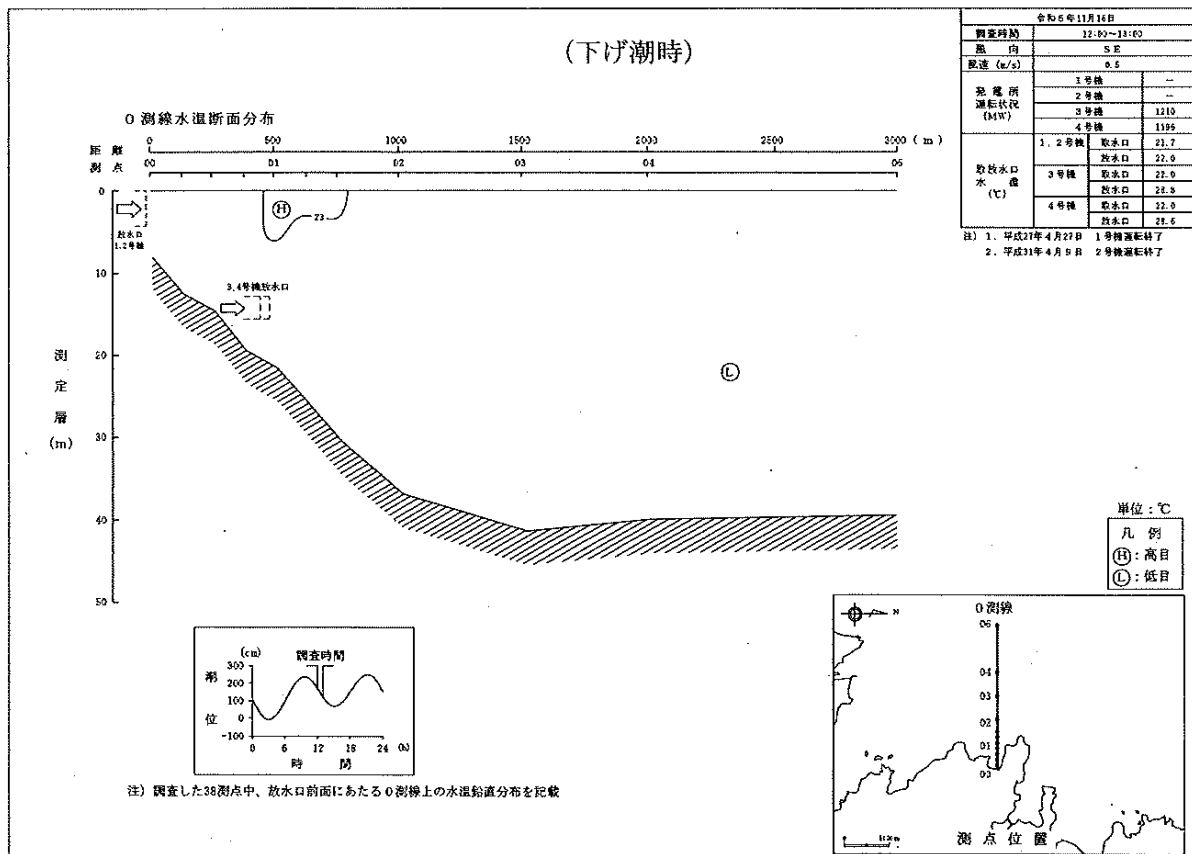
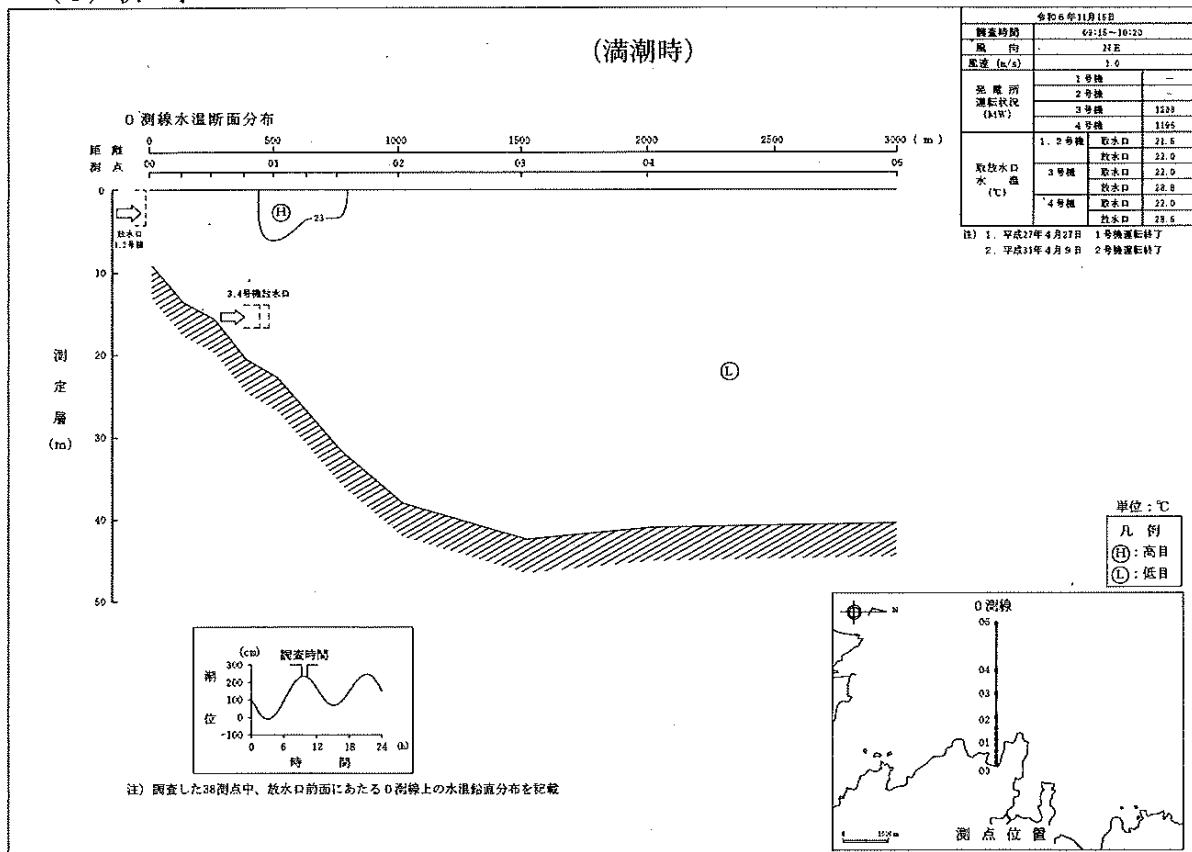


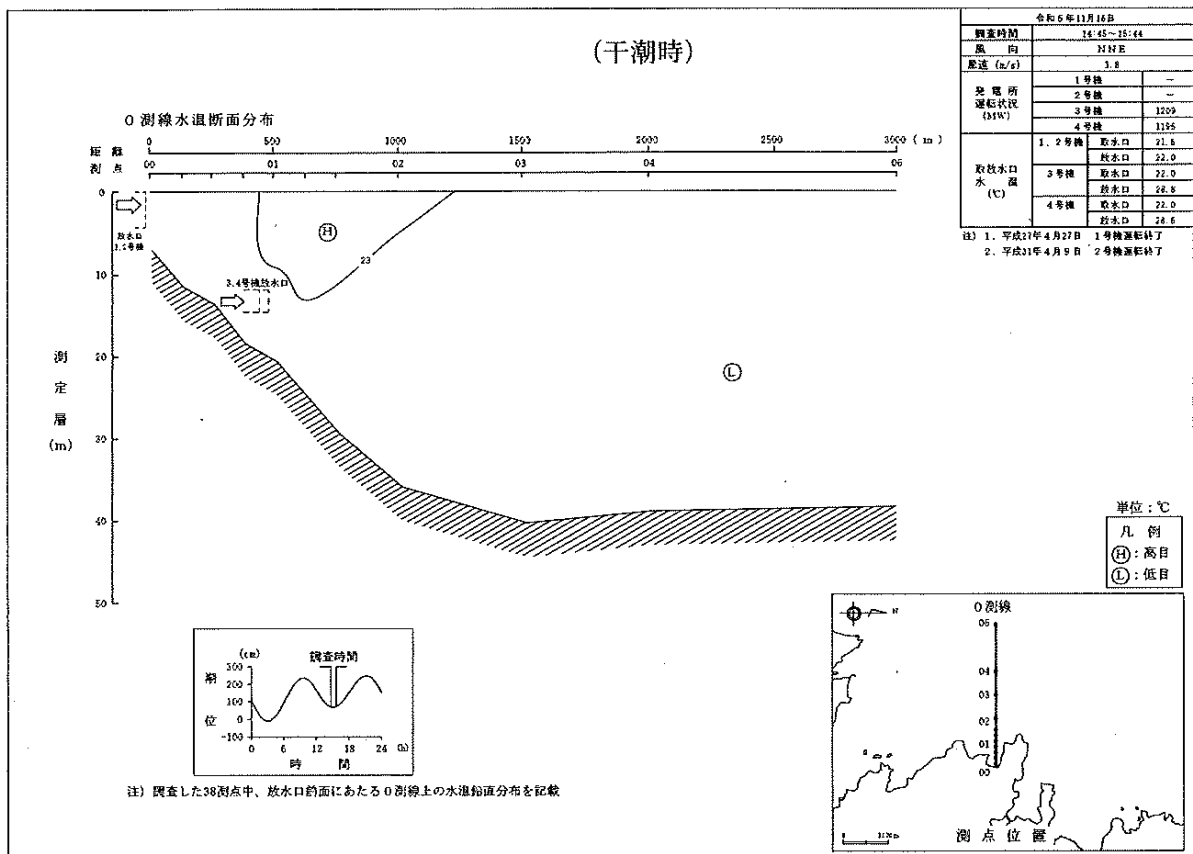
(b) 夏季



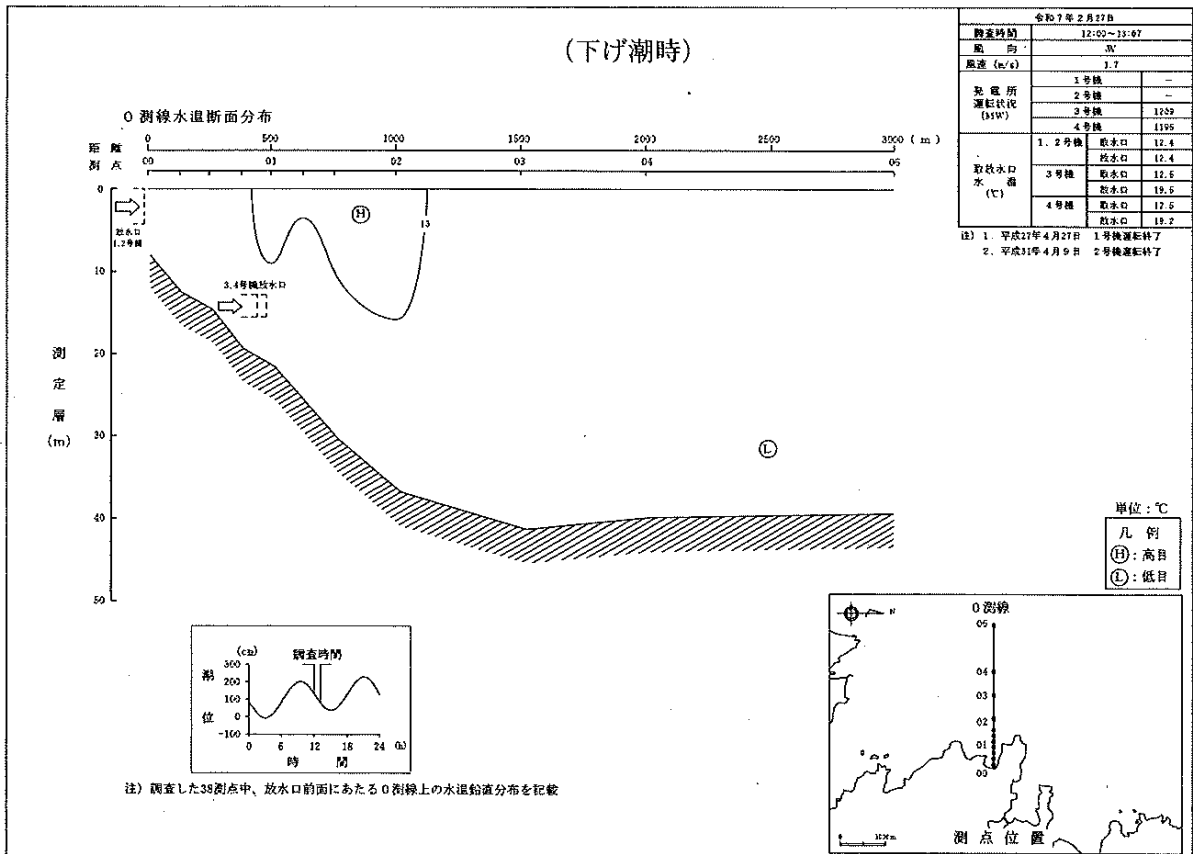
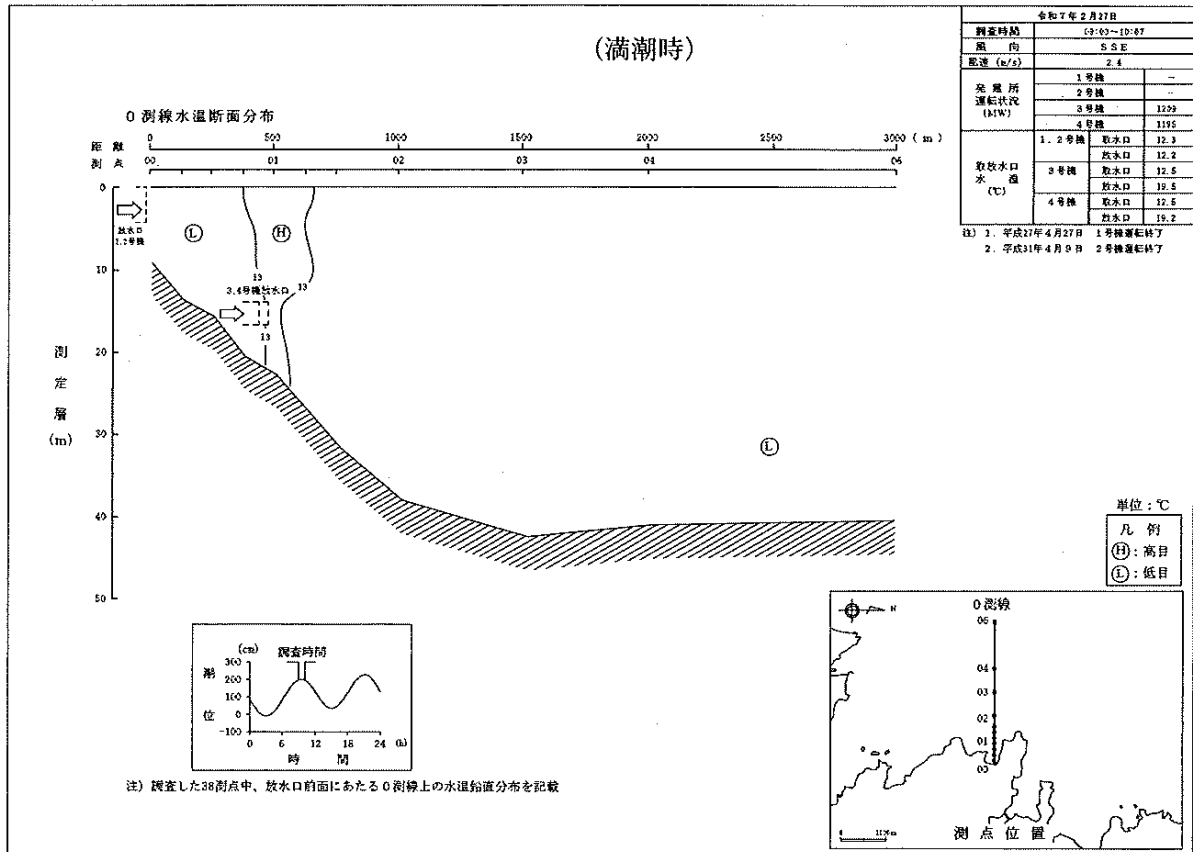


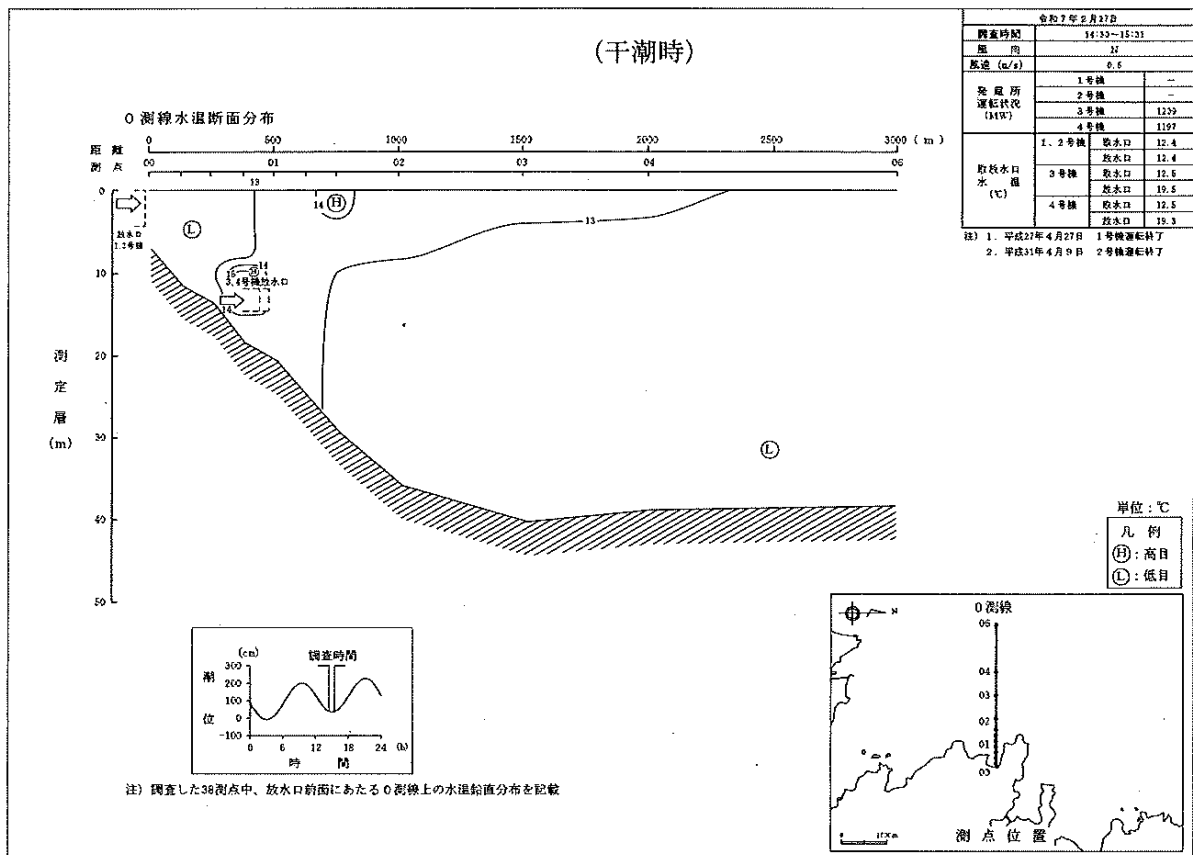
(c) 秋 季





(d) 冬 季





(3) 水 質

調査年月日 項 目		春 季	夏 季	秋 季	冬 季
		令和6年5月25日	令和6年8月21日	令和6年11月17日	令和7年2月28日
水	温 (°C)	18.5 ~ 19.2 18.9	24.1 ~ 27.5 25.7	22.1 ~ 23.1 22.4	12.3 ~ 13.4 12.6
塩	分 (—)	34.24 ~ 34.30 34.27	32.84 ~ 33.17 32.99	33.15 ~ 33.75 33.66	34.38 ~ 34.52 34.45
水素イオン濃度 (—) pH		8.1	8.1	8.1	8.2
溶存酸素量	酸素量 (mg/ℓ)	7.8 ~ 8.5 7.9	7.1 ~ 7.9 7.5	6.9 ~ 7.5 7.1	9.2 ~ 9.5 9.4
	飽和度 (%)	98.5 ~ 109.4 101.4	98.8 ~ 115.7 106.8	93.2 ~ 101.4 95.6	104.8 ~ 110.6 107.3
化学的酸素要求量 (mg/ℓ) COD (アルカリ性法)		0.3 ~ 0.5 0.4	0.4 ~ 0.6 0.5	0.2 ~ 0.4 0.3	0.2 ~ 0.4 0.3
濁	度 (度)	<0.5 ~ 0.5 <0.5	<0.5	<0.5	<0.5
クロロフィル a (μg/ℓ)		0.5 ~ 1.8 1.0	0.3 ~ 1.3 0.8	0.8 ~ 1.9 1.2	1.5 ~ 2.9 2.4

注) 上段は分析値の範囲、下段は平均値を示す。

塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

(4) 底 質

調査年月日 項 目		夏 季	冬 季
		令和6年8月12日	令和7年2月20日
化学的酸素要求量 (mg/g 乾泥) COD		2.2 ~ 4.1 3.2	0.4 ~ 3.4 1.5
粒 度 (%)	礫 分 (2.0mm以上)	0 ~ 15 3	0 0
	粗 砂 分 (0.425~2.0mm)	1 ~ 28 12	1 ~ 38 11
	細 砂 分 (0.075~0.425mm)	37 ~ 80 55	36 ~ 73 54
	シルト・粘土・ゴイト分 (0.075mm以下)	14 ~ 45 30	26 ~ 47 35

注) 上段は分析値の範囲、下段は平均値を示す。

(5) プランクトン

調査年月日 項 目		夏 季 (令和6年8月21日)		冬 季 (令和7年2月28日)	
		取水口側	放水口側	取水口側	放水口側
沈殿量	採水法 (mℓ/m³)	13	15	105	28
	ネット法 (mℓ/m³)	5.2	7.7	56.0	61.6
種類数	植物プランクトン (採水法)	34	38	23	24
	動物プランクトン (ネット法)	34	35	16	17
主要構成	植物プランクトン (採水法)	・ <i>Leptocylindrus danicus</i> (レプトシリンダラス ダニカス) ・ <i>Nitzschia</i> spp. (ニツチア エスピーケー) ・ Euglenophyceae (ユグレン藻類)		・ <i>Chaetoceros sociale</i> (キートケロス ソシアレ) ・ Microflagellata (不明鞭毛藻類) ・ Haptophyceae (ハプト藻類)	
	動物プランクトン (ネット法)	・ かいあし類のナプリス期幼生 ・ <i>Microsetella norvegica</i> (ミクロセッテラ ノルベギカ) ・ <i>Paracalanus</i> (パラカラス) 属のコヘボダイト期幼生		・ かいあし類のナプリス期幼生 ・ <i>Paracalanus</i> (パラカラス) 属のコヘボダイト期幼生 ・ <i>Oithona</i> (オイトナ) 属のコヘボダイト期幼生	
植物	細胞数×10 ⁴ /ℓ (採水法)	6.4	11.0	20.4	12.8
動物	個体数/m³ (ネット法)	30,875	37,780	20,550	31,150

注) 採水法の沈殿量、植物プランクトンの種類数及び細胞数は、取水口側は1測点の4層の平均値、放水口側は2測点の3層の平均値。
ネット法の沈殿量、動物プランクトンの種類数及び個体数は、取水口側は1測点の2層の平均値、放水口側は2測点の1層の平均値。

(6) 潮間帯生物

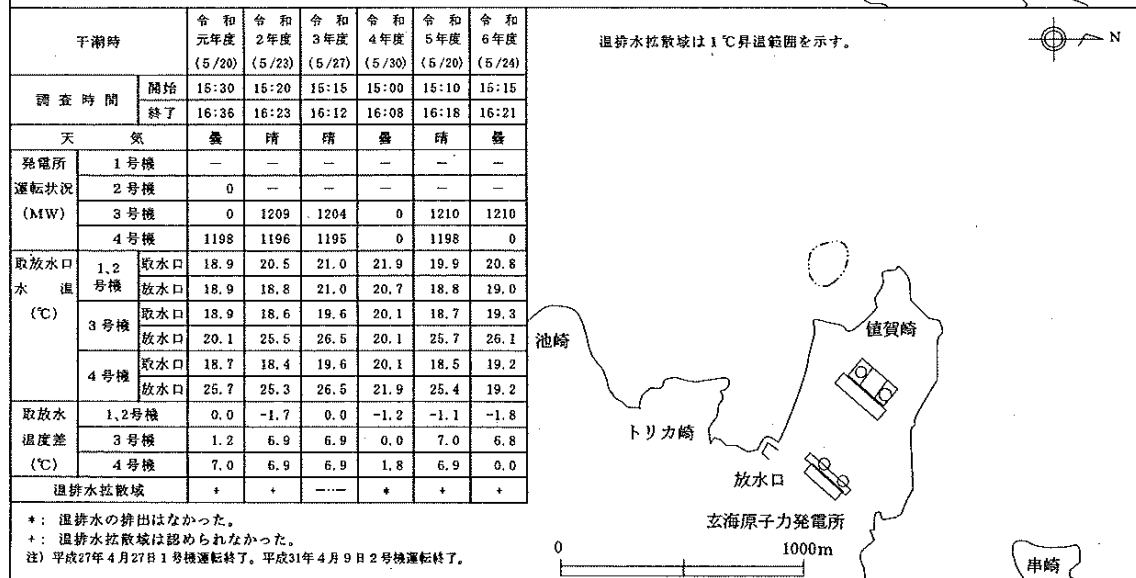
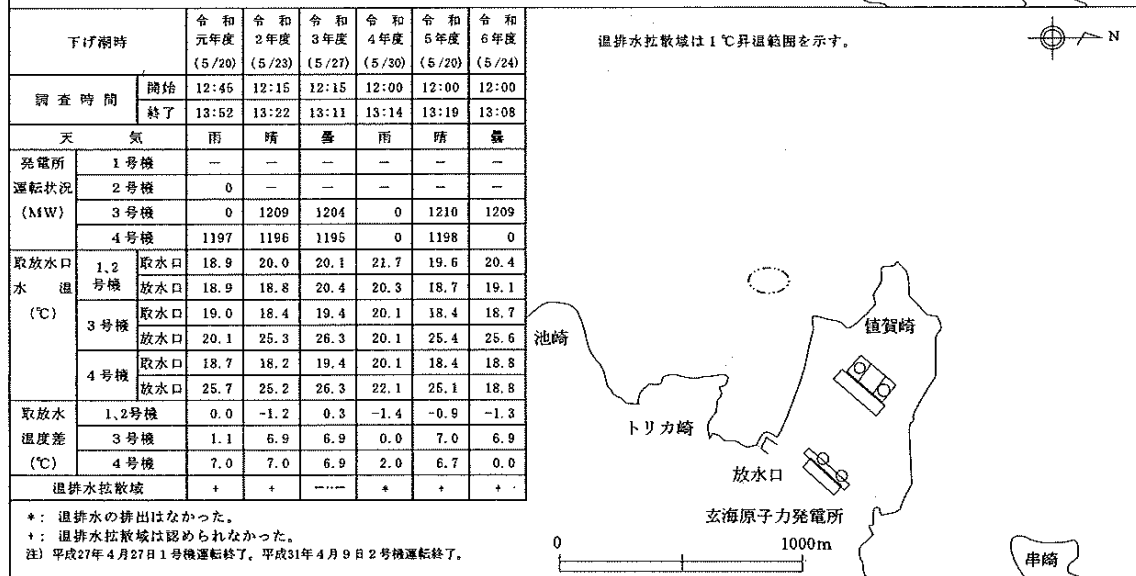
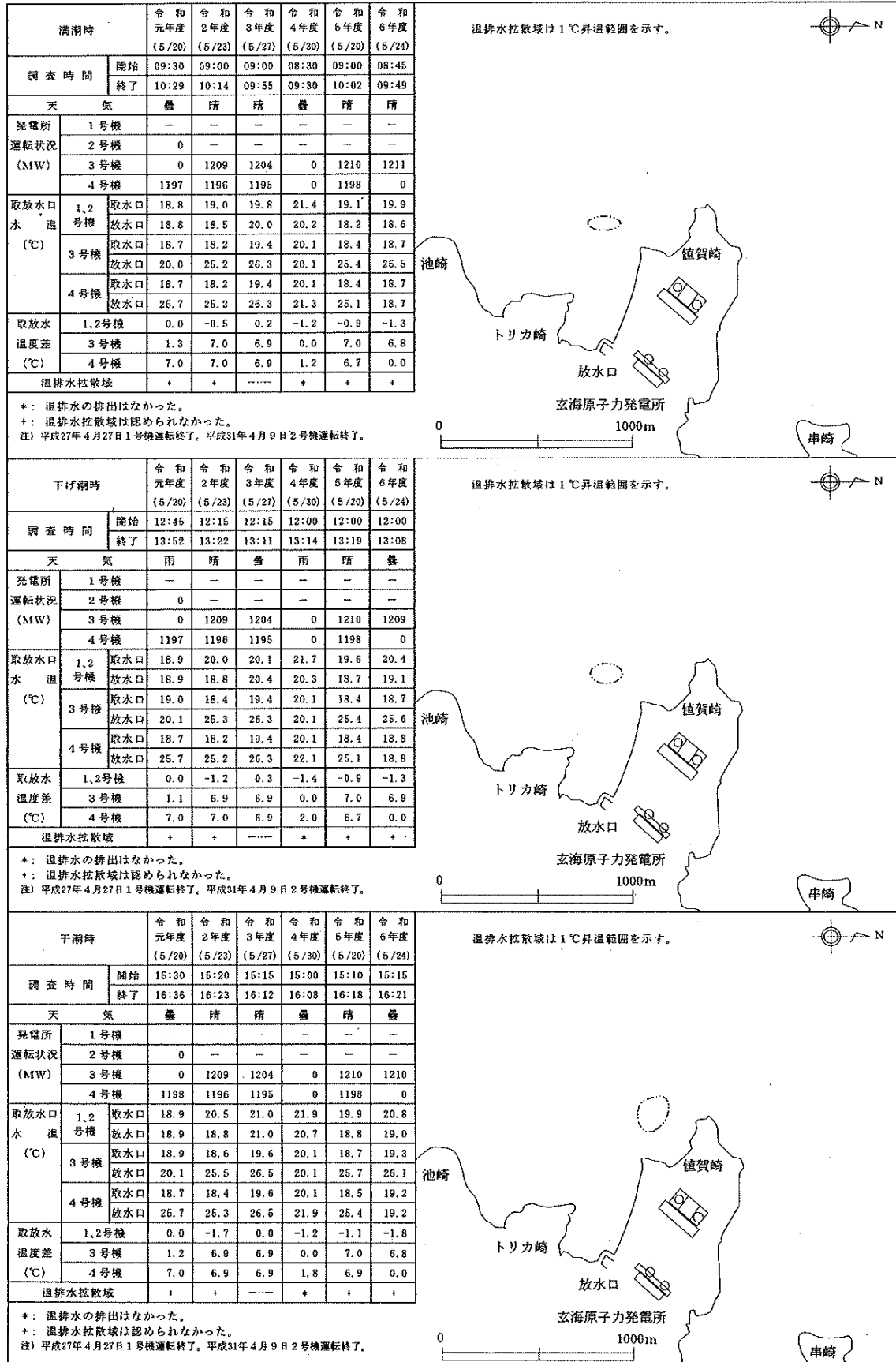
調査年月日 項 目		夏 季	冬 季
		令和6年8月16日～19日	令和7年2月27日～3月1日
出現種類数	植 物	26	41
	動 物	50	52
主要構成種	植 物	・ サビ亜科 ・ 藍藻綱 ・ イワノカワ科 ・ サンゴモ亜科 ・ ヒジキ ・ ヒメテングサ ・ イソガワラ科 ・ モサズキ属 ・ ウミトラノオ ・ イシゲ ・ テングサ科 ・ イソダンツウ	・ サビ亜科 ・ イワノカワ科 ・ 藍藻綱 ・ ヒメテングサ ・ サンゴモ亜科 ・ アマノリ属 ・ カヤモノリ科 ・ イソガワラ科 ・ フクロノリ ・ テングサ科 ・ イシゲ ・ ヒジキ ・ ワカメ ・ シワノカワ ・ ユナ ・ ウミトラノオ ・ 珪藻綱 ・ アオサ属 ・ アミジグサ科 ・ イワヒゲ ・ イソダンツウ
	動 物	・ アラレタマキビ ・ クロフジツボ ・ ヒザラガイ ・ ヤッコカンザシ	・ アラレタマキビ ・ シロガイ属 ・ アオガイ属 ・ マツバガイ ・ ヒザラガイ ・ ヨメガカサ ・ クロフジツボ

注) 全出現種については、参考資料に示した。

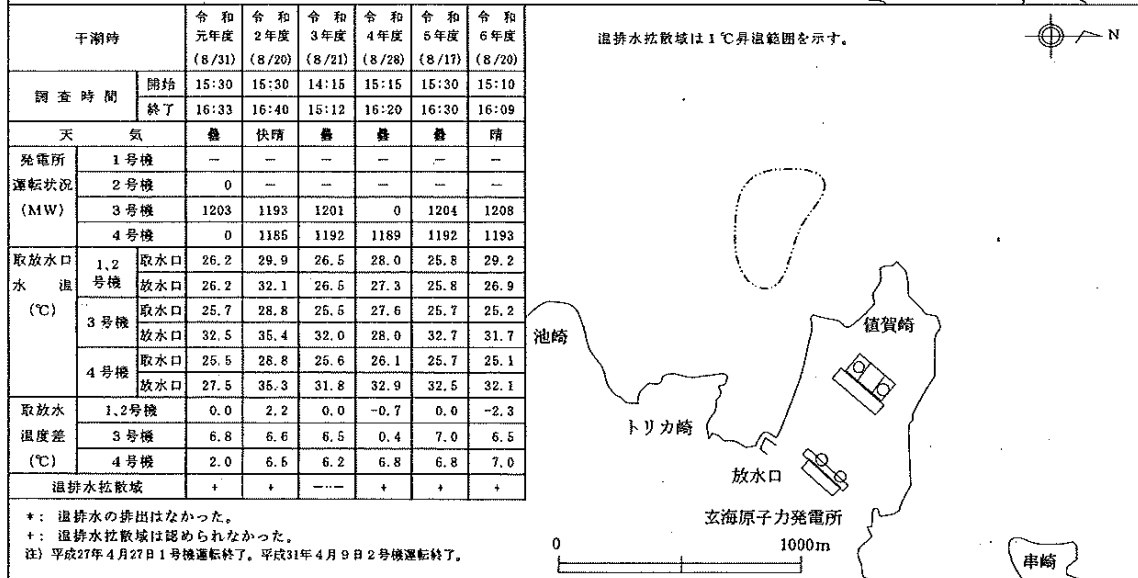
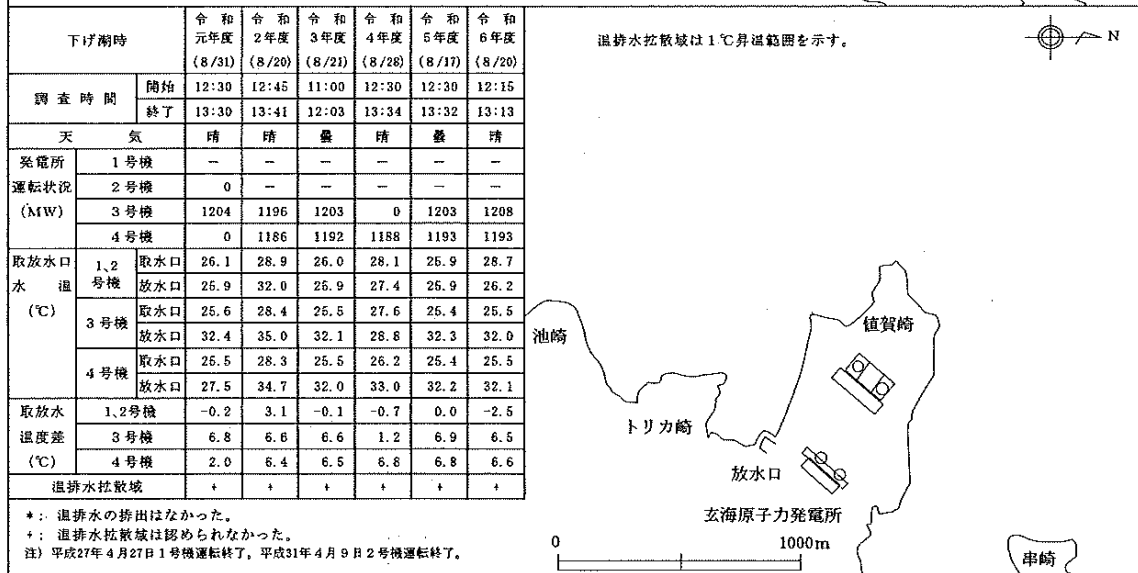
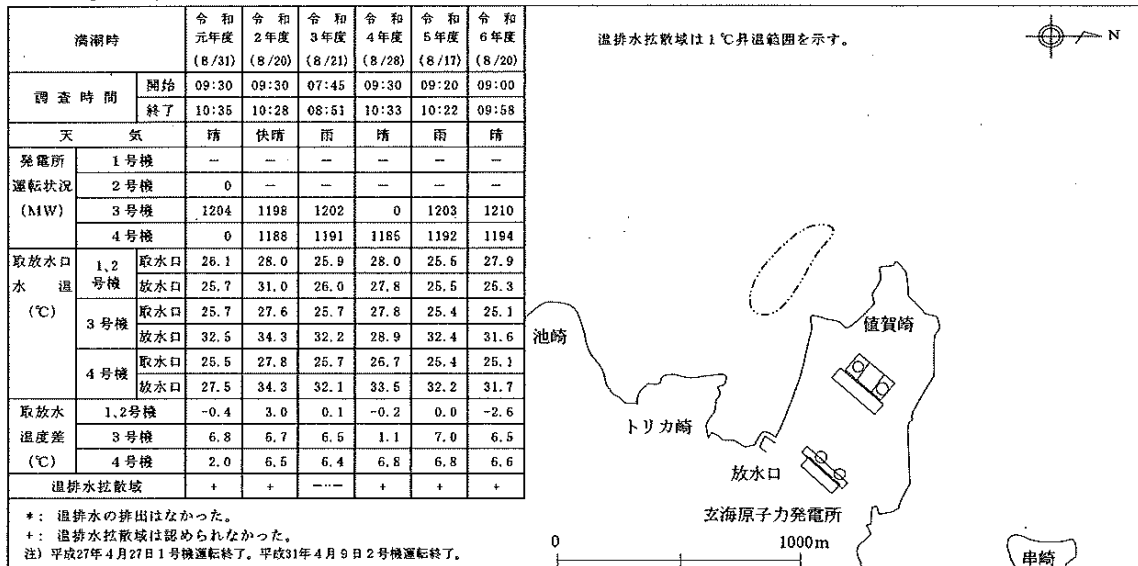
5 経年変化

(1) 水温水平分布 (海面下1m層)

a 春季



b 夏季



c 秋季

満潮時		令和 元年度 (11/27)	令和 2年度 (12/1)	令和 3年度 (11/20)	令和 4年度 (11/24)	令和 5年度 (11/29)	令和 6年度 (11/16)	
調査時間	開始	09:30	09:30	09:45	09:20	10:15	09:15	
	終了	10:42	10:30	10:58	10:26	11:24	10:20	
天気		曇	晴	快晴	晴	曇	曇	
発電所 運転状況 (MW)	1号機	—	—	—	—	—	—	
	2号機	0	—	—	—	—	—	
	3号機	1205	1201	1193	0	0	1208	
	4号機	1194	1194	1197	0	1199	1196	
取放水口 水温 (℃)	1,2号機	取水口	20.1	19.3	20.2	19.7	18.9	21.6
		放水口	20.1	19.3	20.2	19.7	18.8	22.0
	3号機	取水口	20.0	19.3	20.4	19.8	18.9	22.0
		放水口	26.9	26.2	27.4	20.7	21.3	28.8
	4号機	取水口	20.0	19.3	20.4	—※	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.1	27.2	20.8	25.6	28.6
	取放水 温度差 (℃)		1,2号機	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
			3号機	6.9	6.9	7.0	0.9	2.4
		4号機	6.9	6.8	6.8	—※	6.5	6.6
温排水拡散域		+	+	+	+	+	+	

*: 温排水の排出はなかった。
+: 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注) 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

0 1000m

温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。

下げ潮時		令和 元年度 (11/27)	令和 2年度 (12/1)	令和 3年度 (11/20)	令和 4年度 (11/24)	令和 5年度 (11/29)	令和 6年度 (11/16)	
調査時間	開始	12:30	12:30	12:30	12:00	13:00	12:00	
	終了	13:34	13:28	13:33	13:30	14:08	13:00	
天気		曇	晴	快晴	晴	曇	曇	
発電所 運転状況 (MW)	1号機	—	—	—	—	—	—	
	2号機	0	—	—	—	—	—	
	3号機	1205	1200	1192	0	0	1210	
	4号機	1194	1194	1197	0	1199	1196	
取放水口 水温 (℃)	1,2号機	取水口	20.0	19.5	20.4	19.8	18.8	21.7
		放水口	20.0	19.6	20.4	19.9	18.8	22.0
	3号機	取水口	20.0	19.3	20.4	19.9	19.0	22.0
		放水口	26.9	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8
	4号機	取水口	20.0	19.3	20.4	—※	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6
	取放水 温度差 (℃)		1,2号機	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3
			3号機	6.9	6.9	7.0	0.8	2.2
		4号機	6.9	6.8	6.8	—※	6.5	6.6
温排水拡散域		+	+	+	+	+	+	

*: 温排水の排出はなかった。
+: 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注) 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

0 1000m

温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。

干潮時		令和 元年度 (11/27)	令和 2年度 (12/1)	令和 3年度 (11/20)	令和 4年度 (11/24)	令和 5年度 (11/29)	令和 6年度 (11/16)	
調査時間	開始	15:00	15:00	15:00	14:45	15:15	14:45	
	終了	16:06	15:59	16:04	15:45	16:17	15:44	
天気		雨	晴	快晴	晴	曇	曇	
発電所 運転状況 (MW)	1号機	—	—	—	—	—	—	
	2号機	0	—	—	—	—	—	
	3号機	1204	1200	1192	0	0	1209	
	4号機	1193	1194	1197	0	1198	1196	
取放水口 水温 (℃)	1,2号機	取水口	20.0	19.4	20.2	19.8	18.8	21.8
		放水口	20.0	19.5	20.2	19.8	18.8	22.0
	3号機	取水口	20.0	19.3	20.4	19.9	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8
	4号機	取水口	20.0	19.3	20.4	—※	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6
	取放水 温度差 (℃)		1,2号機	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2
			3号機	6.9	6.9	7.0	0.8	2.1
		4号機	6.9	6.8	6.8	—※	6.5	6.6
温排水拡散域		+	+	+	+	+	+	

*: 温排水の排出はなかった。
+: 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注) 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

0 1000m

温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。

下げ潮時		令和 元年度 (11/27)	令和 2年度 (12/1)	令和 3年度 (11/20)	令和 4年度 (11/24)	令和 5年度 (11/29)	令和 6年度 (11/16)	
調 査 時 間	開始	12:30	12:30	12:30	12:00	13:00	12:00	
	終了	13:34	13:28	13:33	13:30	14:08	13:00	
天 気		曇	晴	快晴	晴	曇	曇	
発電所 運転状況 (MW)	1号機	—	—	—	—	—	—	
	2号機	0	—	—	—	—	—	
	3号機	1205	1200	1192	0	0	1210	
	4号機	1194	1194	1197	0	1199	1196	
取放水口 水 温 (℃)	1,2号機	取水口	20.0	19.5	20.4	19.9	18.8	21.7
		放水口	20.0	19.6	20.4	19.9	18.8	22.0
	3号機	取水口	20.0	19.3	20.4	19.9	19.0	22.0
		放水口	26.9	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8
	4号機	取水口	20.0	19.3	20.4	—※	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6
	取放水 温度差 (℃)	1,2号機	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3
		3号機	6.9	6.9	7.0	0.8	2.2	6.8
4号機		6.9	6.8	6.8	—※	6.5	6.6	
温排水拡散域		+	+	+	+	+	+	

※: 温排水の排出はなかった。
+: 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注) 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

0 1000m

玄海原子力発電所

串崎

温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。

干潮時		令和 元年度 (11/27)	令和 2年度 (12/1)	令和 3年度 (11/20)	令和 4年度 (11/24)	令和 5年度 (11/29)	令和 6年度 (11/16)	
調 査 時 間	開始	15:00	15:00	15:00	14:45	15:15	14:45	
	終了	16:06	15:59	16:04	15:46	16:17	15:44	
天 気		雨	晴	快晴	晴	曇	曇	
発電所 運転状況 (MW)	1号機	—	—	—	—	—	—	
	2号機	0	—	—	—	—	—	
	3号機	1204	1200	1192	0	0	1209	
	4号機	1193	1194	1197	0	1198	1196	
取放水口 水 温 (℃)	1,2号機	取水口	20.0	19.4	20.2	19.8	18.8	21.8
		放水口	20.0	19.5	20.2	19.8	18.8	22.0
	3号機	取水口	20.0	19.3	20.4	19.9	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8
	4号機	取水口	20.0	19.3	20.4	—※	19.1	22.0
		放水口	26.9	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6
	取放水 温度差 (℃)	1,2号機	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2
		3号機	6.9	6.9	7.0	0.8	2.1	6.8
4号機		6.9	6.8	6.8	—※	6.5	6.6	
温排水拡散域		+	+	+	※	+	+	

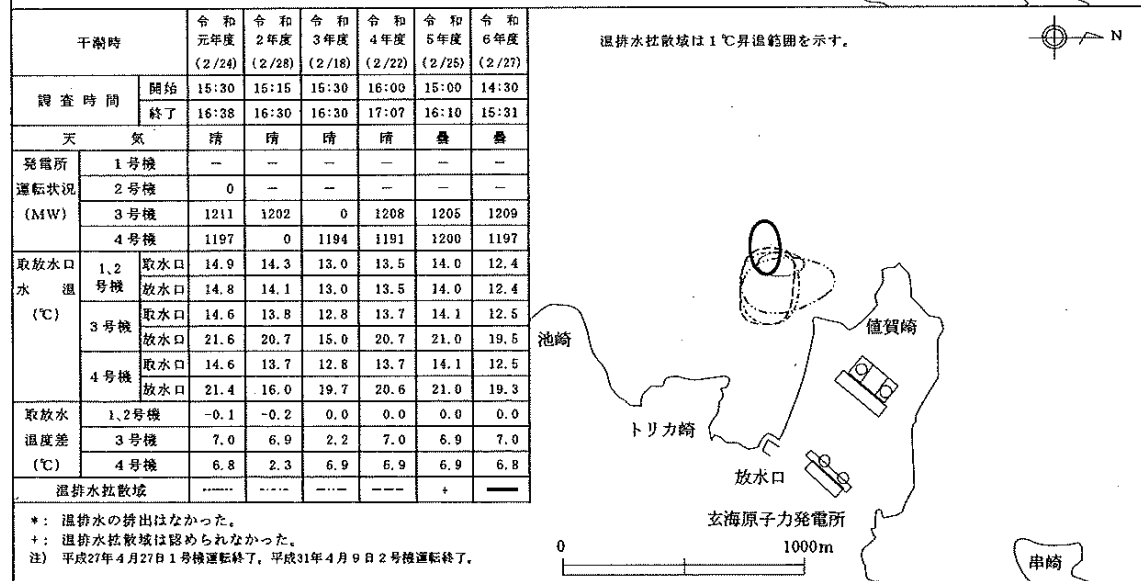
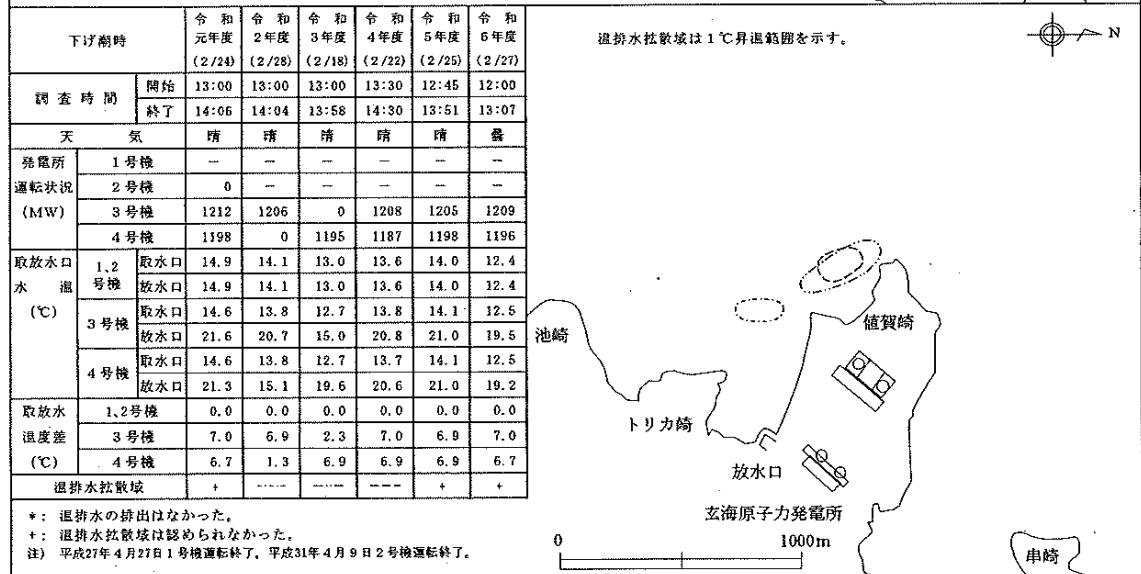
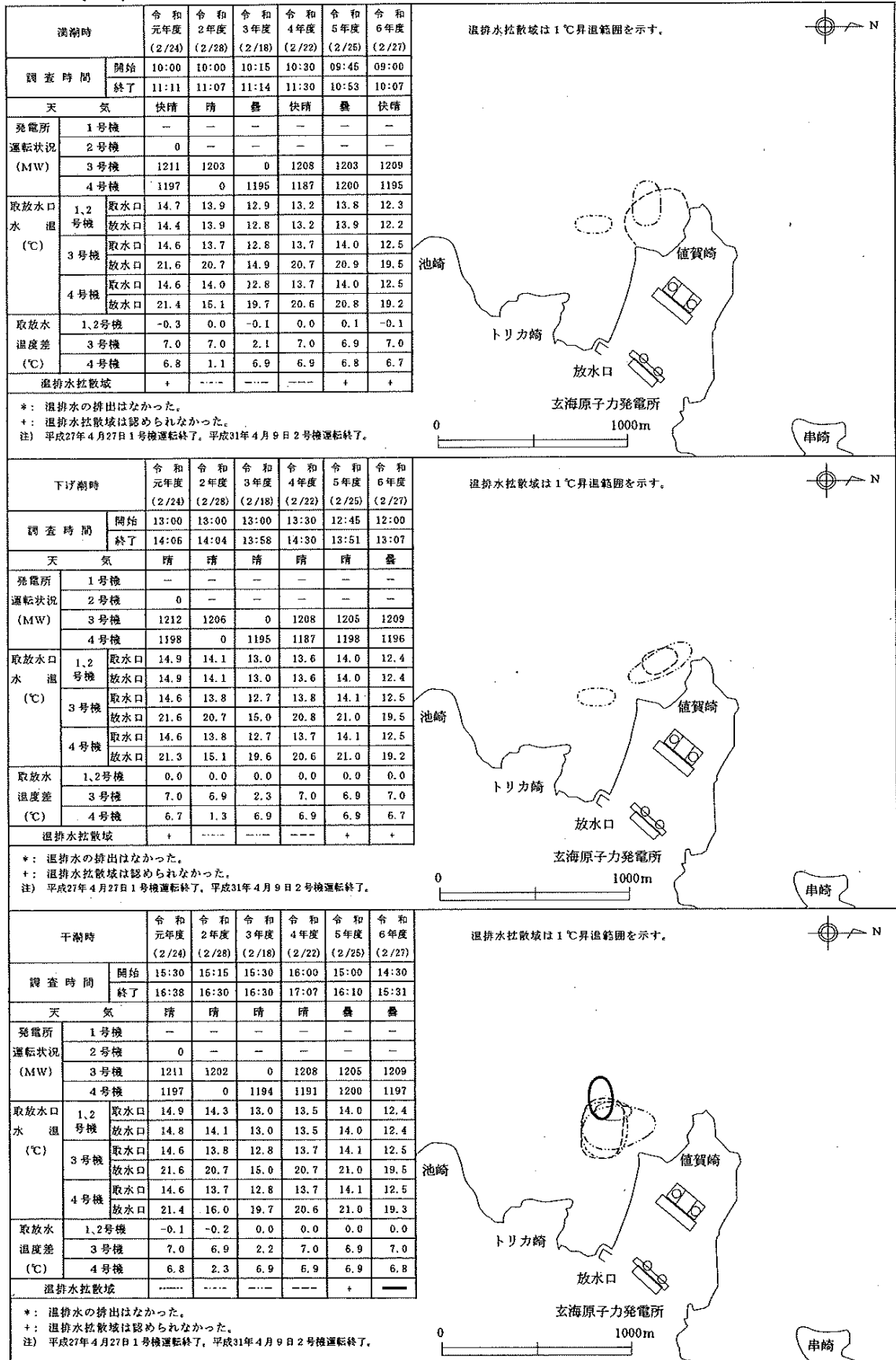
※：温排水の排出はなかった。
+：温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注) 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

池崎 トリカ崎 値賀崎 放出口 玄海原子力発電所 串崎

0 1000m

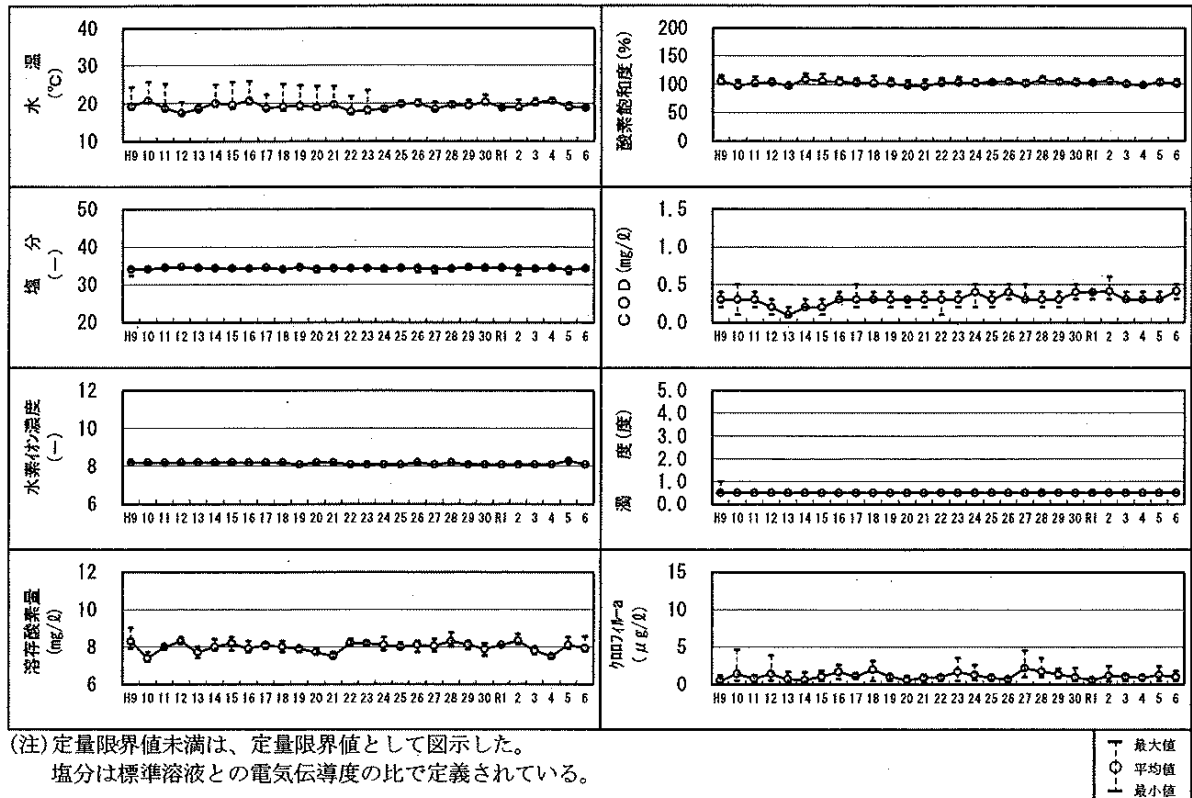
温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。

d 冬季

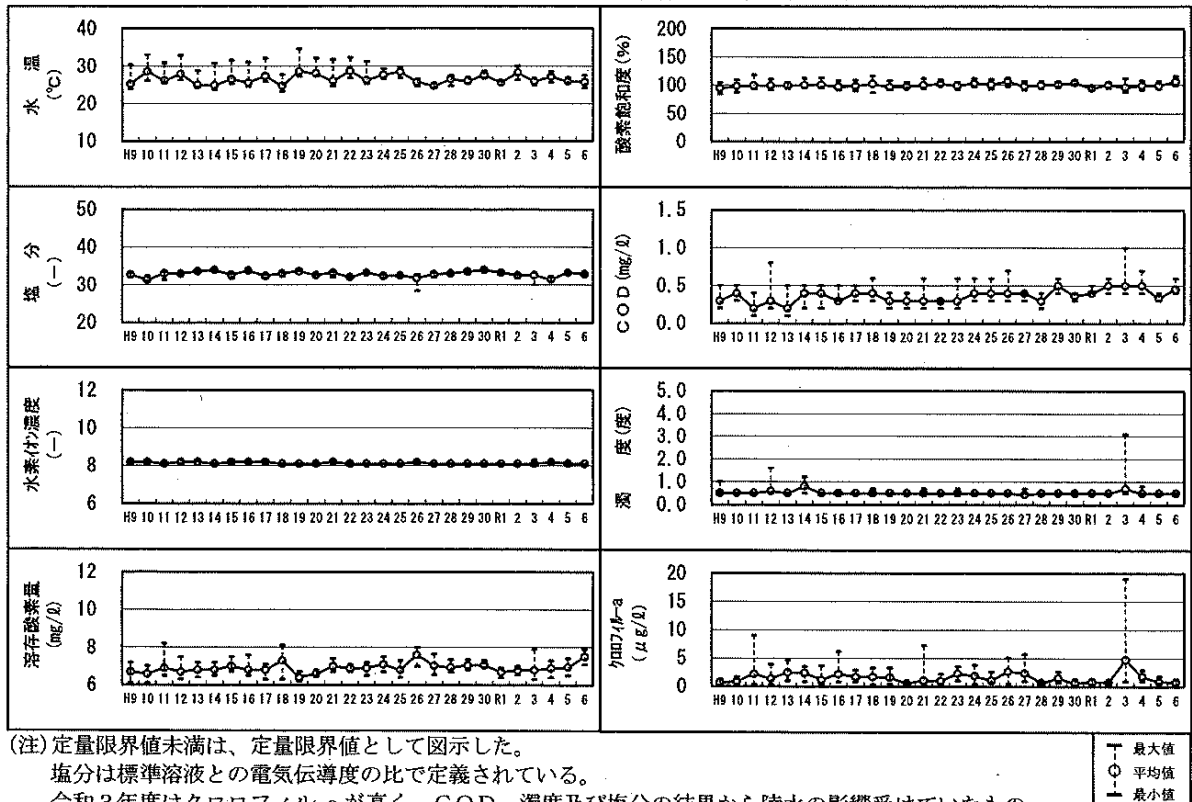


(2) 水 質

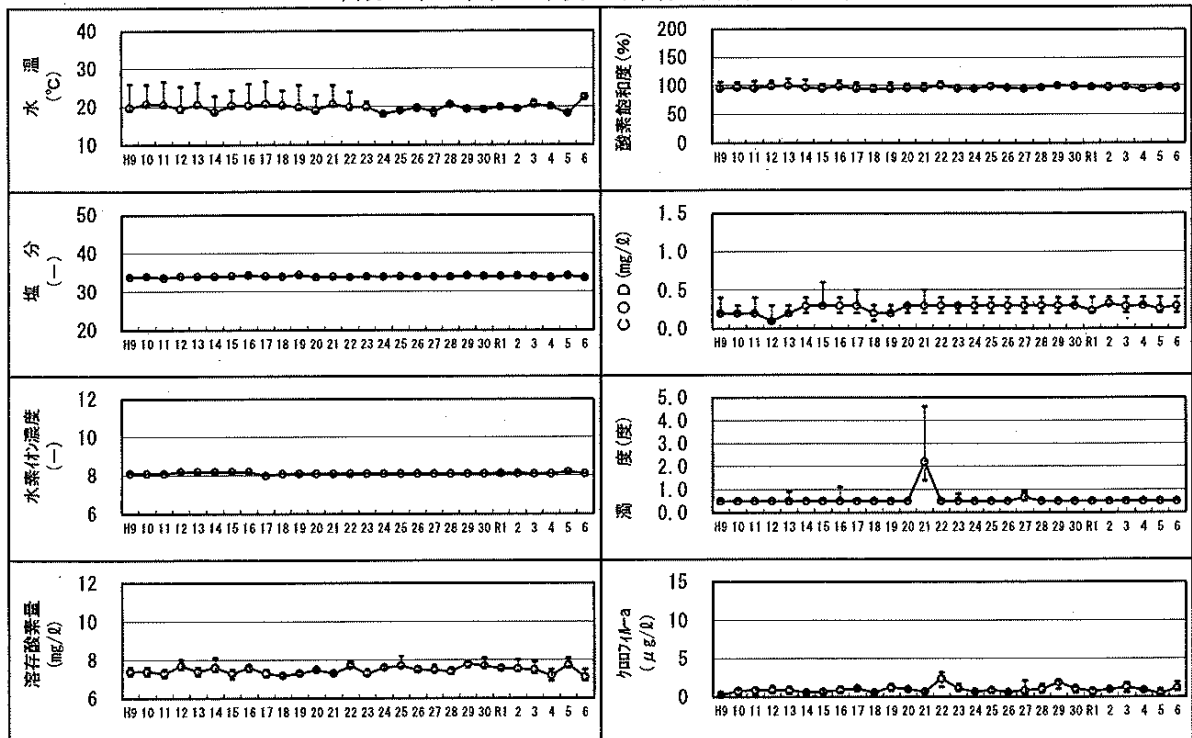
平成9年～令和6年度 水質経年変化 (春季)



平成9年～令和6年度 水質経年変化 (夏季)



平成9年～令和6年度 水質経年変化（秋季）

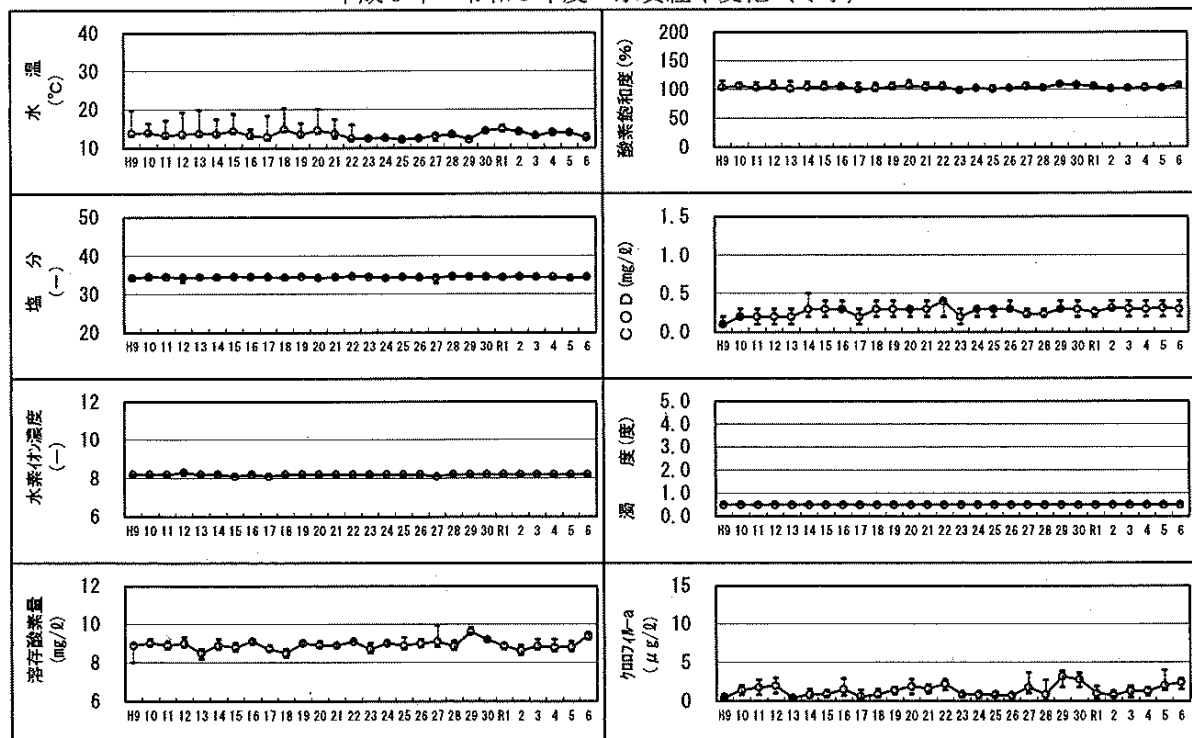


(注) 定量限界値未満は、定量限界値として図示した。

塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

※ 平成21年度濁度について過去の調査結果より高かったが、その要因は、調査日前の降雨により河川から流出した土砂が、時化により沈降できなかったためと考えられる。

平成9年～令和6年度 水質経年変化（冬季）

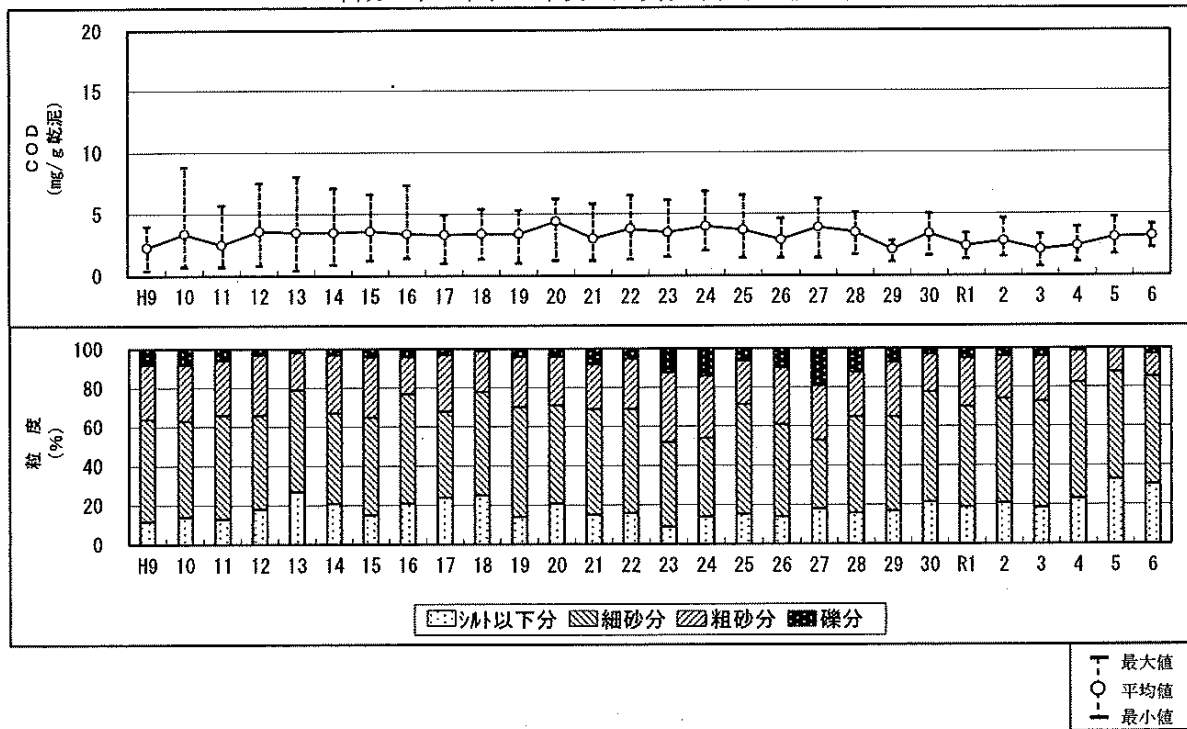


(注) 定量限界値未満は、定量限界値として図示した。

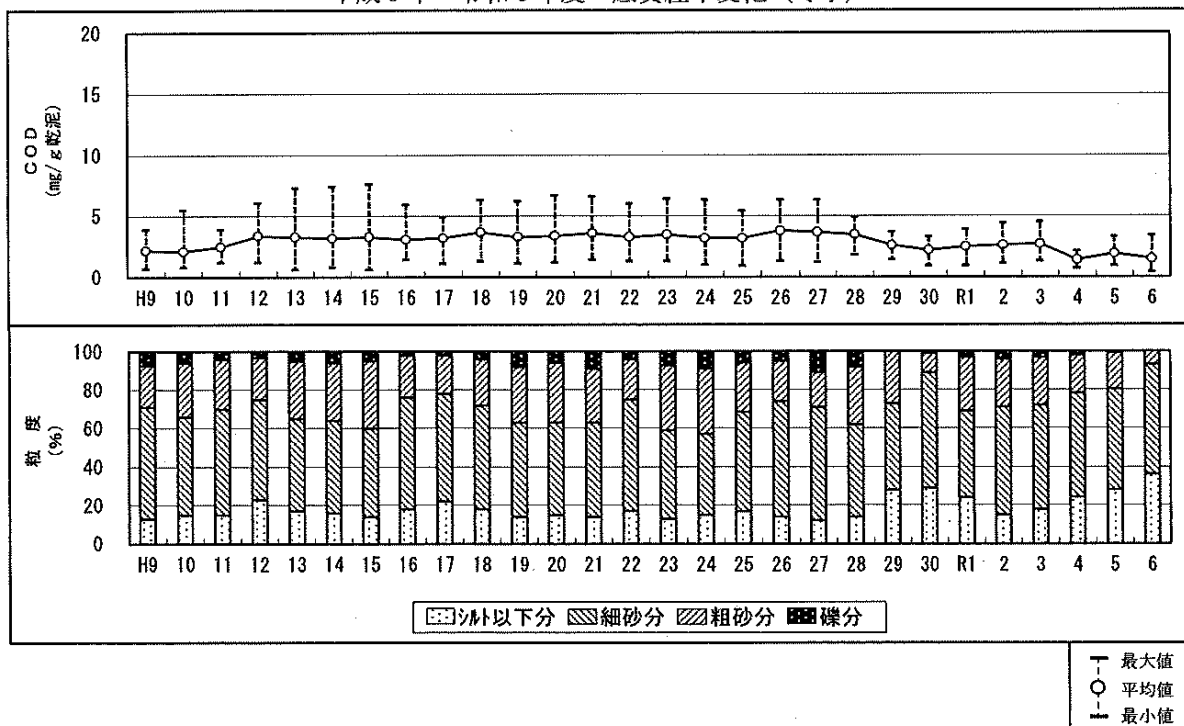
塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

(3) 底 質

平成9年～令和6年度 底質経年変化 (夏季)

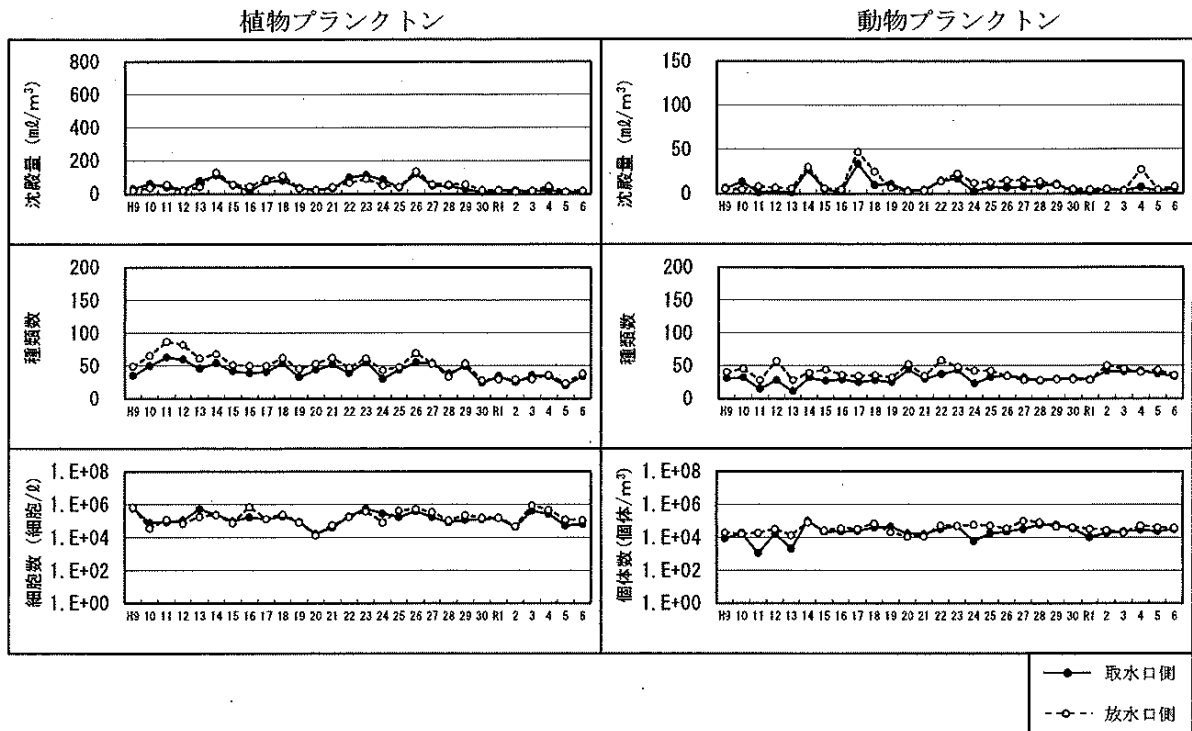


平成9年～令和6年度 底質経年変化 (冬季)

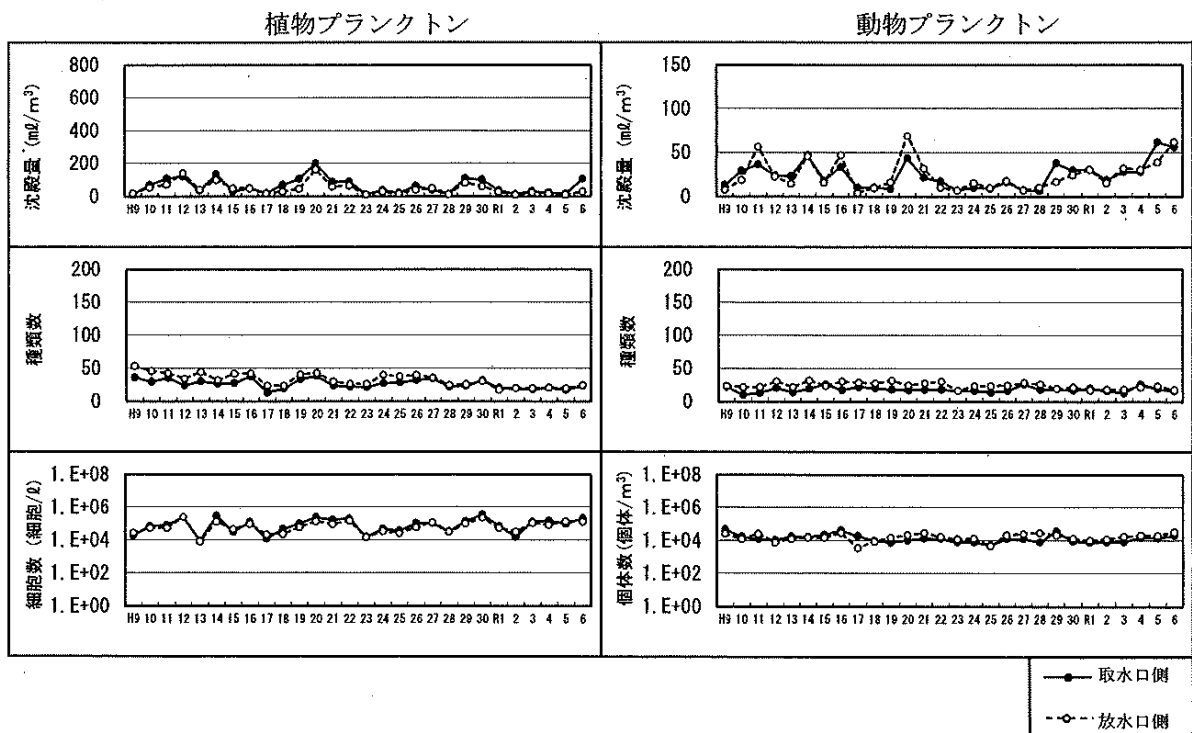


(4) プランクトン

平成9年～令和6年度 プランクトン経年変化 (夏季)

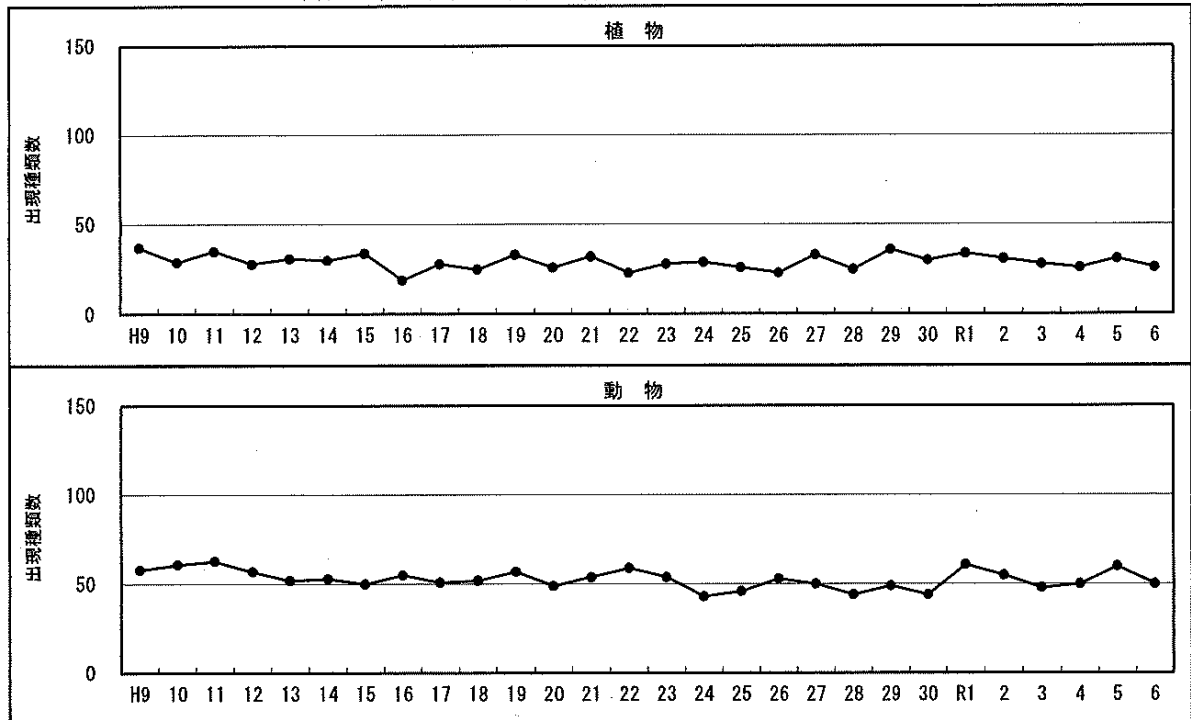


平成9年～令和6年度 プランクトン経年変化 (冬季)

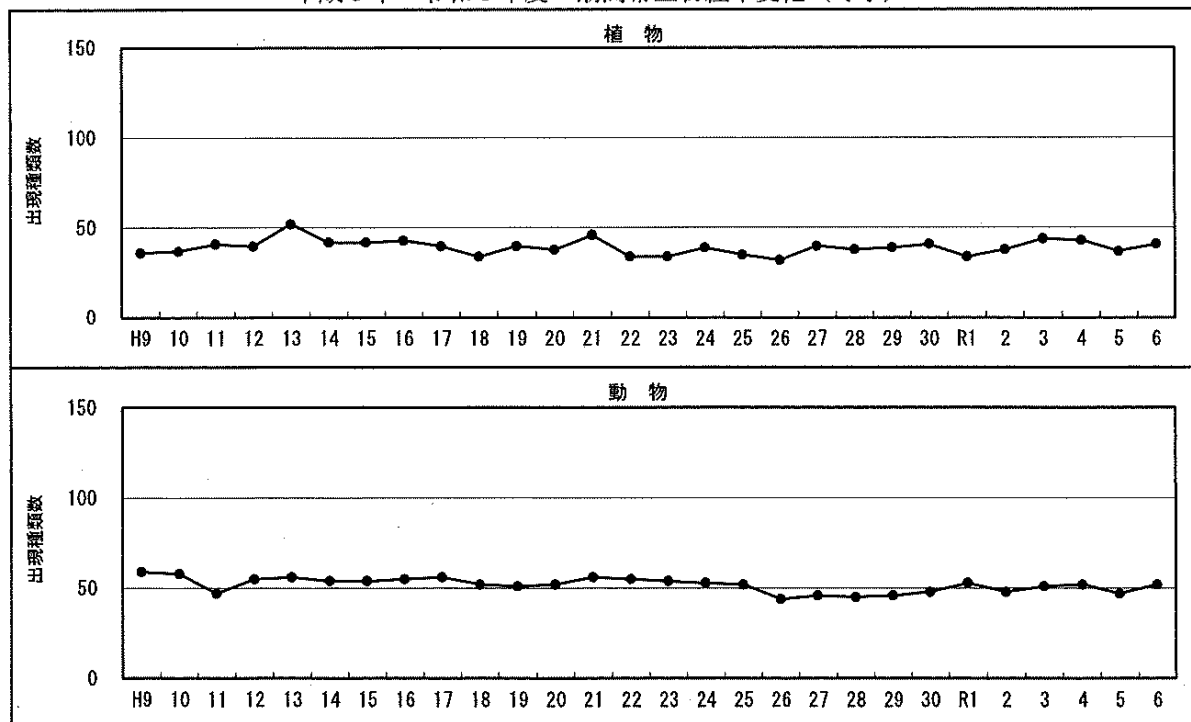


(5) 潮間帯生物

平成9年～令和6年度 潮間帯生物経年変化 (夏季)



平成9年～令和6年度 潮間帯生物経年変化 (冬季)



潮間帯生物出現一覧表 (夏季)

植 物

動 物

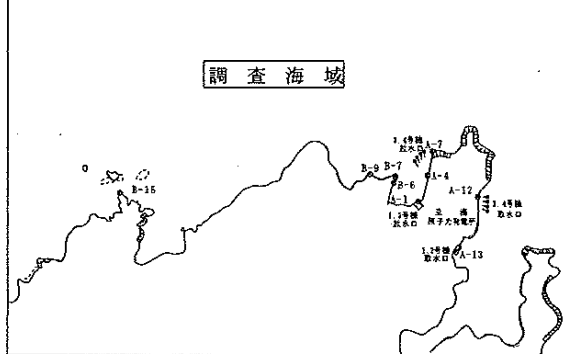
No.	種名	測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現 西点数
1	サビ 亜科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	藍藻綱		○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
3	イワナリ科		○		○	○	○	○	○	○	○	8
4	サコモミ亜科				○	○	○	○	○	○	○	7
5	ヒメキ		○	○	○	○			○	○	○	7
6	ヒメツクサ				○	○	○	○	○	○	○	7
7	イソカワリ科		○		○	○	○	○	○	○	○	7
8	モリスギ属				○	○	○	○	○	○		6
9	ウミトラノオ				○	○	○	○	○		○	4
10	イシカ				○	○		○	○			4
11	テンクサ科				○		○	○			○	4
12	イソカソウ				○	○	○		○			4
13	イキス科				○	○	○					3
14	イソヒカ				○	○				○		3
15	アサ属				○		○		○			3
16	ミドリガ目				○	○						2
17	珪藻綱				○	○						2
18	シノナリ				○	○						2
19	アラノ				○				○			2
20	マクサ				○							1
21	ミル					○						1
22	ミル属					○						1
23	ウミナリ属								○			1
24	イソメ				○							1
25	カイナ				○							1
26	コンブ科					○						1
出現種類数			5	3	20	17	12	10	14	9	9	

[測点位置図]

調 査 海 域

No.	種名	測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現 西点数
1	アソビマキ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	クロフシツボ			○	○	○	○	○	○	○	○	8
3	ヒメツラギ		○		○	○	○	○	○	○	○	8
4	ヤッコカンザシ		○	○		○	○	○	○	○	○	8
5	イワフシツボ				○	○	○	○	○	○	○	7
6	カメナ				○	○	○	○	○	○	○	7
7	ムラサキソコ				○	○	○	○	○	○	○	7
8	シロガイ属		○		○	○	○	○	○	○		7
9	マツバガイ		○	○	○	○	○	○	○		○	7
10	イモニシ				○	○	○	○	○	○	○	6
11	タマキガイ科				○	○		○	○	○	○	6
12	クダキ				○	○	○		○	○	○	6
13	ベッコウサシ				○	○	○	○	○	○	○	6
14	キナハナガイ				○	○	○	○	○	○	○	6
15	イソキンチャク目				○	○	○		○	○	○	6
16	ヨシガサ		○	○		○		○		○	○	6
17	スサガイ科				○	○	○	○	○	○	○	6
18	イシイ科				○	○	○	○	○	○	○	6
19	ウナシ		○		○	○			○		○	5
20	イタダキ科				○	○	○				○	4
21	ムラサキ					○		○	○		○	4
22	海綿動物門				○		○		○	○	○	4
23	フサガイ科				○			○		○	○	4
24	アサガイ属			○				○		○		3
25	ヘビツラギ科					○				○	○	3
26	レイシガイ				○				○	○		3
27	カラマツガイ科		○		○						○	3
28	カメガイ					○	○					3
29	ウラウスガイ		○					○			○	3
30	オオヘビガイ				○			○			○	3
31	カンザシコガイ科					○				○	○	3
32	コシカカソウ		○		○							2
33	シマレイシダマシ				○			○				2
34	キナガ				○					○		2
35	コケムシ綱				○	○	○					2
36	イソタミ		○									1
37	スガイ							○				1
38	アマガイ										○	1
39	クリフレイシ									○		1
40	ニシキツラギ				○							1
41	タマノコガイ		○									1
42	ササエ			○								1
43	タマキ					○						1
44	イワナリガイ科							○				1
45	コヒトウラウス					○						1
46	アガフシツボ					○						1
47	ギンカクフシツボ					○						1
48	クビレクロツケ							○				1
49	ウスイモシ							○				1
50	イソナ		○									1
出現種類数			10	9	29	23	20	26	21	26	26	

[測点位置図]



注) 表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表(冬季)

植 物

動 物

No.	種名	測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現 測点数
1	サトウキビ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	ワノナ科		○		○	○	○	○	○	○	○	9
3	藍藻綱			○	○	○	○	○	○	○	○	8
4	ヒメデングサ			○	○	○	○	○	○	○	○	8
5	サソギモ属				○	○	○	○	○	○	○	7
6	アマリ属				○	○	○	○	○	○	○	7
7	カキモリ科				○	○	○	○	○	○	○	7
8	イサカサ科			○	○	○	○	○	○	○	○	6
9	フクロリ				○	○	○	○	○	○	○	6
10	デングサ科			○	○	○	○	○	○	○	○	6
11	イサ		○		○	○		○	○			5
12	ヒメ			○	○	○			○			5
13	ウミ		○				○	○	○			5
14	シノナリ					○		○	○			4
15	ユ				○	○		○	○			4
16	ウミトラノ			○	○			○	○			4
17	珪藻綱				○	○		○	○			4
18	アサ				○	○		○	○			4
19	アサ				○	○			○			4
20	イサ				○	○		○		○		4
21	イサ				○	○		○				4
22	フクロリ			○	○	○						3
23	イサ				○	○						3
24	モサ				○			○	○			3
25	ソノ				○	○						2
26	アサ				○			○				2
27	アサ				○					○		2
28	ミ				○							1
29	アサ				○							1
30	シ				○							1
31	ウミ				○							1
32	コソ					○						1
33	イサ					○						1
34	マ				○							1
35	オ				○							1
36	アサ				○							1
37	カ							○				1
38	オ				○							1
39	カ				○							1
40	フ					○						1
41	イ				○							1
出現種類数			4	9	34	24	15	20	21	9	13	

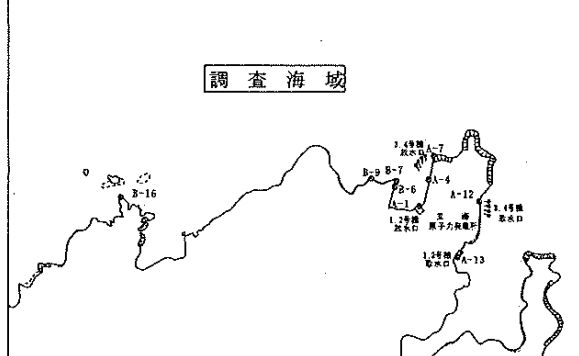
[測点位置図]

調 査 海 域

No.	種名	測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現 測点数
1	アラタキ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	シロ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
3	アサ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
4	マツ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
5	ヒメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
6	ヨメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	8
7	クロ			○	○	○	○	○	○	○	○	8
8	イサ				○	○	○	○	○	○	○	7
9	カサ			○	○	○	○	○	○	○	○	7
10	ムサ			○	○	○	○	○	○	○	○	7
11	イサ		○		○	○	○	○	○	○	○	7
12	ヤコ			○	○	○	○	○	○	○	○	7
13	ヘ			○	○	○	○	○	○	○	○	7
14	タマ				○	○	○	○	○	○	○	6
15	カサ		○		○	○	○	○	○	○	○	6
16	カン				○	○	○	○	○	○	○	6
17	イサ				○	○	○	○	○	○	○	5
18	キノ		○		○	○	○	○	○	○	○	5
19	ムサ			○	○	○	○	○	○	○	○	5
20	イサ			○	○	○	○	○	○	○	○	5
21	タマ		○	○		○	○	○	○	○	○	5
22	カサ				○	○	○	○	○	○	○	5
23	タマ			○	○	○	○	○	○	○	○	5
24	海綿動物門				○	○	○	○	○	○	○	5
25	カサ				○	○	○	○	○	○	○	4
26	ウミ		○			○		○	○		○	4
27	イサ			○	○		○		○			4
28	アサ			○	○			○				3
29	アサ			○		○	○					3
30	アサ				○	○	○		○			3
31	ヒメ				○		○		○		○	3
32	キノ				○	○	○				○	3
33	メ				○			○	○			2
34	イサ			○				○				2
35	タ		○	○								2
36	オ				○						○	2
37	ク				○						○	2
38	ア				○		○					2
39	コ					○						2
40	ク			○								1
41	ア										○	1
42	フ				○							1
43	イ			○								1
44	レ				○							1
45	ニ								○			1
46	ク										○	1
47	ク				○							1
48	ク				○							1
49	ハ				○							1
50	ハ					○						1
51	ク				○							1
52	ク					○						1
出現種類数			12	18	35	28	25	20	27	17	30	

注) 表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

[測点位置図]



注) 表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表(夏季・分類群別)

		植 物												出現 測点数
No.	種名	測点			A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	
1	緑藻植物門	緑藻綱	アザ目	アザ科	アザ属			○		○		○		3
2			ミト'カ'目					○	○					2
3			ミル目	ミル科	ミル属				○					1
4					ミル属				○					1
5	褐藻植物門	同形世代綱	シオシ'ロ'目	イソ'ワ'科	イソ'ワ'科	○		○		○	○	○	○	7
6			アジ'ク'目	アジ'ク'科	カミ'ワ'属						○			1
7		異形世代綱	カ'マ'目	カ'マ'科	シノ'カ'科			○	○					2
8				イソ'ワ'科	イソ'ワ'科			○	○	○	○			4
9			ハ'モ'目	コギン'ク'科	イソ'ワ'科			○	○			○		3
10			コソ'目	コソ'科					○					1
11					ア'目			○			○			2
12		円胞子綱	ヒ'マ'目	ヒ'マ'科	ヒ'マ'科	○	○	○	○		○	○	○	7
13					ウミ'ラ'科			○		○	○	○	○	4
14					イソ'ワ'科			○						1
15	紅藻植物門	真正紅藻綱	テン'ク'目	テン'ク'科				○	○	○			○	4
16					ヒ'マ'科			○	○	○	○	○	○	7
17					マ'科			○						1
18			カ'レ'目	イソ'ワ'科		○		○	○	○	○	○	○	8
19				ギン'ク'科		○	○	○	○	○	○	○	○	9
20					ヒ'マ'科			○	○	○	○	○	○	6
21					ギン'ク'科			○	○	○	○	○	○	7
22			ス'目	ギン'ク'科	イソ'ワ'科			○	○	○	○	○	○	4
23				ス'目	ギン'ク'科			○						1
24			イ'目	イ'科	イ'科			○		○				3
25	藍藻植物門	藍藻綱				○	○	○	○	○	○	○	○	8
26	珪藻植物門	珪藻綱						○						2
出現種類数						5	3	20	17	12	10	14	9	9

		動物		測点										出現 測点数
No.	種名			A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16		
1	海綿動物門					○		○		○	○		4	
2	刺胞動物門	花虫綱	イソキ*ンチヤ目			○	○	○		○	○	○	6	
3	軟体動物門	ヒザ*ラカ*イ綱	ヒザ*ラカ*イ目	ヒザ*ラカ*イ科	ヒソキヒザ*ラカ*イ	ヒザ*ラカ*イ				○	○	○	1	
4					○		○	○	○	○	○	○	8	
5				カハ*ヒザ*ラカ*イ科			○	○	○	○	○	○	3	
6		マキカ*イ綱	サカシガ*イ目	サカシガ*イ科	ベ*ツコウサ*ラ	マツハ*カ*イ		○	○	○	○	○	6	
7				ツカハ*科		ヨシガ*ササ	○	○	○	○	○	○	7	
8					○	○	○	○	○	○	○	○	6	
9				ユキノササ科	ウバノサ		○			○	○	○	5	
10					カサガ*イ		○	○					3	
11					シロガ*イ属		○	○	○	○	○	○	7	
12					アサガ*イ属		○	○		○	○	○	3	
13				ニシキウス*科	インダ*タミ		○						1	
14					クビ*レコウツ*ケ				○				1	
15					クマノコガ*イ		○						1	
16					コシタカガ*ンカ*ラ	○							2	
17					ウス*イサシ				○				1	
18				リュウテン科	ササ*エ		○						1	
19					ササ*イ								1	
20					ウラウス*カ*イ	○			○			○	3	
21					アマカ*イ							○	1	
22			アマノサ*科	アマノサ*科			○				○	○	6	
23			ニナ目	クマキヒ*カ*イ科				○			○	○	1	
24					クマキヒ*			○					9	
25					アラレタマキヒ*	○	○	○	○	○	○	○	1	
26					コヒ*トウラウス*			○					1	
27				ムササビ*カ*イ科	オホヘビ*カ*イ		○		○			○	3	
28			ハ*イ目	アサガ*イ科	シマレインカ*マシ		○						2	
29					レインカ*イ		○			○	○		3	
30					イサ*ニシ		○	○	○	○	○	○	6	
31					カサフレイシ						○	○	1	
32				エツ*ハ*イ科	イソニ	○	○						1	
33			モノアラカ*イ目	カサマツカ*イ科		○		○			○	○	3	
34					キナノハサ*イ		○	○		○	○	○	6	
35			ニマカ*イ綱	アサガ*イ目	アサガ*イ科		○	○	○	○	○	○	4	
36				カサ*イ目	カサ*イ科			○	○	○	○	○	6	
37					ムササビインコ		○	○	○	○	○	○	7	
38				ウツ*イサカ*イ目	イサカ*カ*サ科		○	○	○	○	○	○	4	
39					カサ*キ		○	○	○				6	
40				ハマカ*リ目	キナサ*カ*サ科		○				○		2	
41					イササカ*イ科								1	
42	環形動物門	コ*カ*イ綱	ケササ目	カササ*ウコ*カ*イ科				○		○	○	○	3	
43					ケササカササ*シ	○	○	○	○	○	○	○	8	
44	節足動物門	甲殻綱	フシ*ツサ*目	ミヨウカ*カ*イ科	カサノテ		○	○	○	○	○	○	7	
45				イワフシ*ツサ*科	イワフシ*ツサ*		○	○	○	○	○	○	7	
46				フシ*ツサ*科	アサフシ*ツサ*			○					1	
47					カサカサフシ*ツサ*			○					1	
48					カサフシ*ツサ*		○	○	○	○	○	○	8	
49	触手動物門	コクムシ綱	コクムシ目	カサ*ウニ科			○	○		○			2	
50	棘皮動物門	ウニ綱	ウニ目	カサ*ウニ科	カサウニ			○		○		○	4	
出現種類数				10	9	29	23	20	26	21	26	26		

注) 表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表(冬季・分類群別)

植 物					測 点										出現 測点数
No.	種名				A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16		
1	緑藻植物門	緑藻綱	アサ目	アサ科	アサ属			○		○	○			4	
2				アサノリ属				○		○			2		
3				ミナミ目				○						1	
4				シオクサ科	シオクサ属									1	
5				ジュズモ属				○						1	
6	褐藻植物門	同形世代綱	シロシロ目	イソノリ科			○		○		○		○	6	
7			アミシロ目	アミシロ科			○	○		○		○	4		
8					カミナリ属			○					1		
9		異形世代綱	ナガ目	ナガ科	ナガ属			○	○		○	○	○	4	
10				イシク科	イシク属			○	○		○	○	5		
11				ハナモト目	コモンバクロ科	イワヒナ	○		○	○		○	○	4	
12				ナガバノ科				○	○	○	○	○	○	7	
13					アサノリ			○	○	○	○	○	○	6	
14			コン目	コン科					○					1	
15					アラノ							○		2	
16					ウサノ	○				○		○		5	
17		円胞子綱	ヒメ目	ヒメ科	ヒメ属		○	○	○		○	○		○	5
18				カミナリノ			○				○	○		4	
19				イモク				○						1	
20			原始紅藻綱	カサノ目	カサノ科	アサノリ属			○	○	○	○	○	○	7
21				テング目	テング科				○	○	○	○	○		6
22					ヒメシロ科			○	○	○	○	○	○	8	
23					ナガバ			○	○	○				1	
24					ナガバ			○						1	
25	紅藻植物門	カクレ目	イワノリ科			○	○	○	○	○	○	○	○	9	
26			ナガバ科			○	○	○	○	○	○	○	○	9	
27				ナガバ科			○	○	○	○	○	○	○	3	
28				ナガバ科			○	○	○	○	○	○	○	7	
29				ナガバ科					○	○	○	○	○	1	
30		スキ目	アサノリ科	アサノリ			○	○	○					3	
31				ナガバ科	ナガバ			○	○	○		○		4	
32				ナガバ科	ナガバ						○			1	
33				ナガバ科	ナガバ				○					1	
34				ナガバ科	ナガバ				○					1	
35				ナガバ属				○	○					2	
36			ナガバ目	ナガバ科	ナガバ				○	○				1	
37			ナガバ目	ナガバ科	ナガバ			○		○				3	
38				ナガバ科	ナガバ				○					1	
39				ナガバ				○			○			4	
40	藍藻植物門	藍藻綱					○	○	○	○	○	○	○	8	
41	珪藻植物門	珪藻綱						○	○	○				4	
出現種類数					4	9	34	24	15	20	21	9	13		

		動物 測点												出現 測点数
No.	種名	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16				
1	海綿動物門				○	○	○	○		○		5		
2	刺胞動物門	ヒト'ロムシ綱	ヒト'ロムシ目	ハナ'キ科			○					1		
3	花虫綱	イソ'キ'ンチャク目				○	○				○	5		
4				タテ'マイン'ンチャク科	タテ'マイン'ンチャク		○	○				3		
5	軟体動物門	ヒ'ラ'イ綱	ヒ'ラ'イ目	ヒ'ラ'イ科	ヒ'ラ'イ				○			1		
6						○	○	○	○	○	○	8		
7				カハ'ヒ'ラ'イ科			○	○	○	○	○	5		
8		マ'キ'イ綱	マ'キ'イ目	マ'キ'イ科					○			3		
9				ツナ'ハ科	ハ'ツ'ウ'ラ		○	○	○	○	○	7		
10					マ'ハ'イ	○	○	○	○	○	○	8		
11					ヨ'ハ'イ	○	○	○	○	○	○	8		
12				ユ'キ'ハ'科	ユ'キ'ハ'科	○	○	○	○	○	○	4		
13					ハ'キ'イ		○		○	○	○	5		
14					シ'ロ'ハ'イ属	○	○	○	○	○	○	9		
15					ア'ハ'イ属	○	○	○	○	○	○	8		
16				ニ'キ'ウ'科	ニ'キ'ウ'科	○			○			2		
17					ク'レ'ロ'ウ'ク	○						1		
18					ク'ラ'ウ'イ			○				2		
19					ク'マ'コ'ハ'イ	○	○					2		
20				ユ'ウ'テ'ン'科	ユ'ウ'テ'ン'科						○	1		
21				ア'マ'フ'科	ア'マ'フ'科						○	1		
22			ニ'キ'目	ク'マ'キ'ハ'イ科	ク'マ'キ'ハ'イ科			○	○	○	○	6		
23					ク'マ'キ'ハ'イ	○	○		○	○	○	5		
24					ア'ラ'ク'マ'キ'ハ'イ	○	○	○	○	○	○	9		
25				ハ'キ'ハ'イ科	ハ'キ'ハ'イ科		○		○	○	○	2		
26				ヨ'リ'ハ'ハ'イ科	ヨ'リ'ハ'ハ'イ科		○		○	○	○	2		
27			ハ'イ目	ア'キ'ハ'イ科	ア'キ'ハ'イ科		○		○			1		
28					ハ'キ'ハ'イ	○	○	○	○	○	○	7		
29					ハ'キ'ハ'イ		○					1		
30				ク'ロ'コ'ロ'ハ'イ科	ク'ロ'コ'ロ'ハ'イ科		○					1		
31				エ'ツ'ハ'イ科	エ'ツ'ハ'イ科		○					1		
32			モ'リ'ア'ラ'ハ'イ目	ハ'ラ'マ'ツ'ハ'イ科	ハ'ラ'マ'ツ'ハ'イ科	○		○	○	○	○	6		
33					ハ'ラ'マ'ツ'ハ'イ	○	○	○	○	○	○	5		
34		ニ'マ'ハ'イ綱	フ'ラ'ハ'イ目	フ'ラ'ハ'イ科	フ'ラ'ハ'イ科			○				3		
35			ハ'ハ'イ目	ハ'ハ'イ科	ハ'ハ'イ科		○					4		
36					ハ'									

注) 表中の○は、その測点で観察されたことを示す。